

田原本町文化財 調査年報

2006年度

16



田原本町教育委員会

田原本町文化財 調査年報 2006年度 16



田原本町教育委員会

例 言

1. 本書は、田原本町教育委員会が2006年度（平成18年度）に実施した文化財事業の概要をまとめたものである。
2. 埋蔵文化財の発掘調査については、土地所有者・施工業者ならびに近隣の皆様にご協力とご理解を賜った。記して感謝します。
3. 本書掲載遺物については、神野恵・小池伸彦・巽淳一郎・土橋理子・西口壽生・三好美穂諸氏にご教授を賜った。記して感謝の意を表します。
4. 本書の執筆は、Ⅰ・Ⅰを奥谷知日朗、Ⅰ・Ⅱを清水琢哉・豆谷和之・奥谷の調査担当者、Ⅱ・Ⅲを河森一浩・藤田三郎、Ⅳは清水と奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員の奥田尚氏に玉稿を賜った。最終的に河森・藤田が編集した。

目 次

I. 田原本町の埋蔵文化財

1. 町内における開発と遺跡の異動

(1) 町内における開発と発掘調査	1
(2) 遺跡の異動	3

2. 埋蔵文化財の調査

(1) 発掘調査の概要	4
1. 羽子田遺跡 第30次調査	6
2. 羽子田遺跡 第31次調査	7
Column 1 古墳時代初頭の異形土器	8
Column 2 古墳周濠に伴う供献施設?	9
3. 清水風遺跡 第5次調査	10
Column 3 清水風遺跡から出土した官衙的な遺物	11
4. 法貴寺北遺跡 第4次調査	12
5. 法貴寺北遺跡 第5次調査	13
6. 法貴寺齋宮前遺跡 第6次調査	14
Column 4 奈良三彩の大皿	15
7. 阪手遺跡 第4次調査	16
8. 千代遺跡 第7次調査	17
9. 秦庄遺跡 第6次調査	18
10. 秦庄遺跡 第7次調査	19
11. 西竹田遺跡 第2次調査	20
12. 矢部中曾司遺跡 第1次調査	21
(2) 試掘調査と工事立会の概要	22
千代遺跡 試掘調査	23
小坂安田前遺跡 試掘調査	24
秦楽寺遺跡 試掘調査	25
法貴寺遺跡 工事立会	27
秦庄遺跡 工事立会	27
羽子田遺跡 工事立会	28
Column 5 羽子田古墳群	29

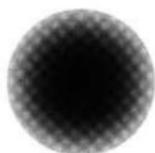
II. 資料の整理と活用・普及

1. 埋蔵文化財の整理・保管	33
2. 資料の管理と製作	
(1) 出土遺物の写真撮影と発掘調査写真のデジタル化	36
(2) 資料の製作	37
3. 遺跡の整備	
(1) 史跡の公有化	38
4. 研究活動	39
5. 講座	
(1) 考古学実践講座	39
(2) チャレンジ子ども弥生探検隊	41
6. 学校教育の支援と講師派遣	
(1) 出前授業	43
(2) 職場体験学習	44
(3) 博物館実習	44
(4) 職員の派遣	44
7. 刊行物一覧	45
8. 資料の活用	
(1) 資料の貸出	46
(2) 資料の継続貸出	47
(3) 掲載許可資料	47
9. 図書を受領	49
10. ボランティア組織	
(1) 設立の趣意	50
(2) 主な活動内容	50
(3) 平成18年度の活動内容	50

III. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1. 施設の概要	
(1) 田原本青垣生涯学習センターの概要	55
(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要	55
2. 開館に至る経緯と名称	
(1) 開館に至る経緯と経過	56
(2) ミュージアムの名称	56
(3) 展示の方針	56

3. 利用案内	57
4. 常設展示	
(1) 展示室の概要	58
(2) 唐古・鍵の弥生世界	59
(3) 山原本のあゆみ	61
(4) ロビー展示	61
5. 企画展・ミニ展示・展示解説	
(1) 春季企画展「太子道の巻を捲る」	62
(2) 秋季企画展「弥生時代の青銅器製造」	65
(3) 夏季ミニ展示	68
(4) 冬季ミニ展示	69
(5) 特別陳列	70
(6) 展示解説	70
6. 入館者	
(1) 入館者数	71
(2) 視察・研修での利用	73
(3) 学校での利用	73
(4) 海外研究者の来館	73
(5) 資料調査	73
(6) 入館者アンケート	74
7. ホームページ	74
8. 展示ボランティア・ガイド	
(1) ガイド実績と運営	75
(2) ボランティア・ガイドの研修会	75
(附編) 条例	76
IV. 資料の報告	
1. 清水風遺跡出土の製塩土器（清水琢哉）	83
2. 製塩土器の表面にみられる砂礫（奥田 尚）	87



I. 田原本町の埋蔵文化財

1. 町内における開発と遺跡の異動

(1) 町内における開発と発掘調査

本町における2006年度（平成18年度）の民間開発行為等による埋蔵文化財発掘届（第93条）は43件、地方公共団体等による通知（第94条）は17件で、計60件を数える。ここ3年の発掘届は40件台で、発掘通知件数を合わせると50～60件であり、ほぼ横道い状況である。

本年度の発掘調査は22件である。このうち田原本町教育委員会が実施した発掘調査は17件で、その内訳は公共事業に伴うもの7件、民間開発に伴うもの5件、個人住宅の建築に伴うもの4件、範囲確認調査が1件である。

第1表 田原本町における2006年度の発掘届および発掘通知一覧

単位=件

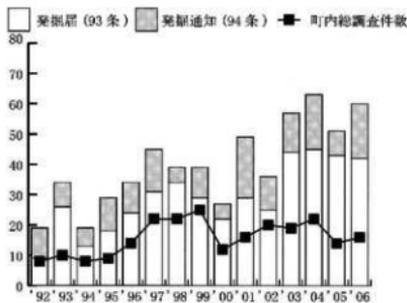
	発掘届 93条	発掘通知 94条	発掘調査	工事立会	慎重工事
2006年度 (平成18年度)	43 (うち変更届3)	17	通知内容 17 実施分 町17(うち試掘5) 県4	20 22	16

第2表 田原本町における埋蔵文化財発掘届・通知と発掘調査の件数

単位=件

	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	
発掘届(93条)	9	26	13	18	24	31	34	29	22	29	25	44	45	43	43	
発掘通知(94条)	10	8	6	11	10	14	5	10	5	20	11	13	18	8	17	
計	19	34	19	29	34	45	39	39	27	49	36	57	63	51	60	
調査件数	町	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18	18	14	12
	県	1	1	3	1	0	2	0	2	1	1	1	1	3	0	4
町内総調査件数	8	10	10	9	14	24	21	26	13	16	20	19	21	14	16	

※ 試掘調査件数を除く



第1図 発掘届・通知と発掘調査件数の推移

第3表 2006年度 他機関による町内の発掘調査一覧表

遺跡・次数	調査地	原因	調査面積	調査機関
保津・宮古 第34次	田原本町 宮古	道路の 拡幅	214.4㎡	奈良県立橿原 考古学研究所
保津・宮古 第35次	田原本町 宮古	道路の 拡幅	207㎡	奈良県立橿原 考古学研究所
笹鉾山古墳群 第7次	田原本町 八尾地内	道路の 拡幅	34.5㎡	奈良県立橿原 考古学研究所
法貴寺齊宮前 第7次 小阪榎木 第3次	田原本町 法貴寺・ 西井上・ 小阪・阪手	大和紀伊 平野農業 水利事業	2,000㎡	奈良県立橿原 考古学研究所

近年の発掘調査要因は、個人住宅に伴うものと公共事業に伴うものがほとんどである。本年度、発掘調査面積が20㎡以下のものが半数を占めている。過去15年間の推移をみると、発掘調査面積・出土遺物総数ともに減少傾向にあり、今年度は総調査面積・遺物総数ともに最も低い値である。これは依然として民間開発による発掘調査が少ないこと、継続的に実施してきた唐古・鍵遺跡や笹峠山1号墳の範囲確認調査をおこなっていないことに起因する。

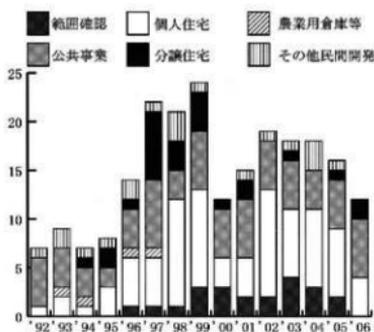
第4表 町教育委員会が実施した発掘調査の原因別の推移

単位=件

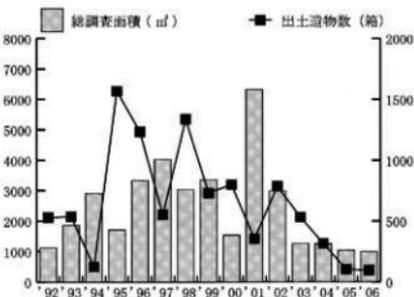
調査原因	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06
範囲確認	0	0	0	0	1	1	1	3	3	2	2	4	3	2	0
個人住宅	1	2	1	3	5	5	11	10	3	4	11	7	8	7	4
農業用倉庫等	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間開発	公共事業	5	4	3	2	4	7	3	6	5	6	5	4	5	6
	分譲住宅	0	0	1	2	1	7	3	4	1	2	0	1	0	1
その他	1	2	1	1	2	1	3	1	0	1	1	1	3	1	0
計	7	9	7	8	14	22	21	24	12	15	19	18	18	16	12

第5表 町教育委員会による発掘調査の面積と出土遺物数の推移

	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06
総調査面積 (㎡)	1,118	2,015	2,910	2,015	3,328	4,040	3,034	3,356	1,535	6,314	3,008	1,263	1,235	1,030	986
1件あたりの調査面積(㎡)	159	206	415	214	237	182	144	139	127	420	157	70	69	74	82
出土遺物数 (箱)	529	537	124	1,567	1,234	552	1,337	730	799	354	785	532	314	104	95



第2図 発掘調査原因の推移



第3図 発掘調査面積と出土遺物数の推移

(2) 遺跡の異動

2005年度（平成17年度）に実施した発掘調査等の成果から、矢部中曾司遺跡（新規確認）、常楽寺推定地（範囲の拡大）、宮古石橋遺跡（新規確認）の3遺跡で遺跡の異動をおこなった（第6表・第4図）。なお、本年度の調査により新規確認・範囲拡大した遺跡については、次年度にて報告をおこなう。

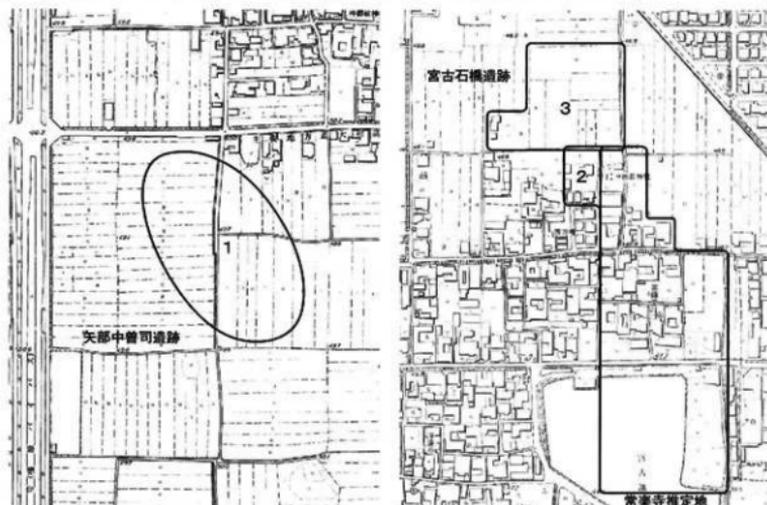
矢部中曾司遺跡（1） 周知の遺跡外でおこなわれた南北道路の擁壁工事において、古墳時代を中心とした遺物が採集された。周辺を踏査したところ遺物が確認されたことから、南北約200m、東西約125mの範囲を新規確認の遺跡として認定した。

常楽寺推定地（2） 遺跡北端で実施した常楽寺推定地第5次調査では、近世大溝を検出した。近世大溝は本遺跡外へ延びており、遺跡外での工事立会でその続きを確認した。工事立会で確認した近世大溝の屈曲部分までを本遺跡として認識し、遺跡の範囲拡大をおこなった。

宮古石橋遺跡（3） 常楽寺推定地第5次調査で、中世居館の環濠と考えられる溝や井戸を検出したことから、北側隣接地に遺跡が展開していることが予想された。また、調査地北側の烏状の畑地周辺で踏査をおこなったところ、平安～鎌倉期を中心とした遺物を採集した。このような状況から、調査地北側に中世居館跡の存在が推定され、新規の遺跡として認定した。

第6表 田原本町内における遺跡の異動一覧

	遺跡名	異動内容	報告	通知	通知日
1	矢部中曾司遺跡	新規確認	田教文 第43号	教文 第7011号	H18. 5. 17
2	常楽寺推定地	範囲拡大	田教文 第44号	教文 第7015号	◇
3	宮古石橋遺跡	新規確認	田教文 第45号	教文 第7016号	◇



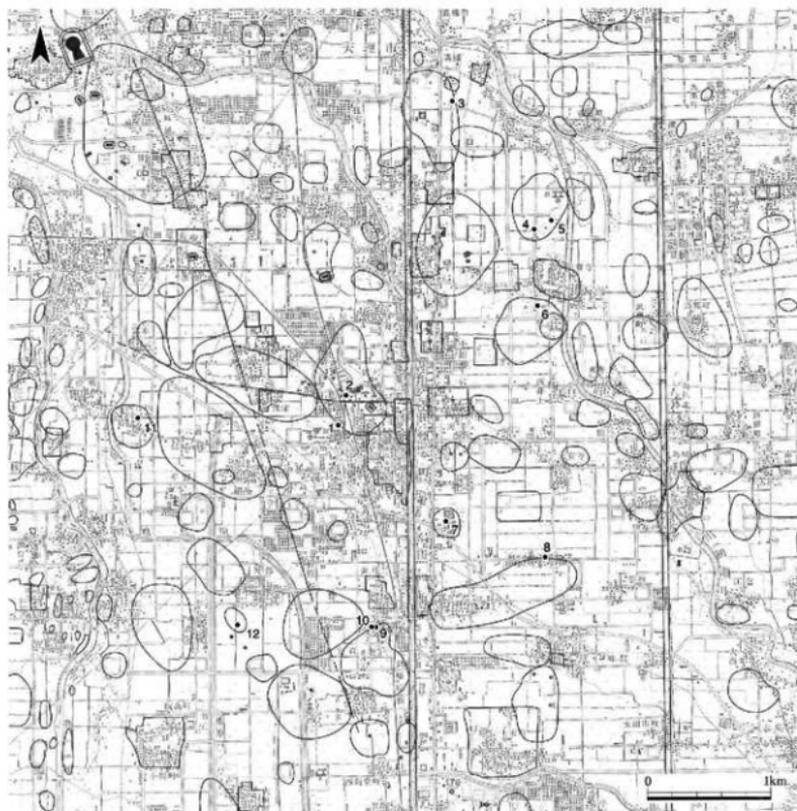
第4図 2006年度 遺跡の異動 (1:5,000)

2. 埋蔵文化財の調査

(1) 発掘調査の概要

本年度、町教育委員会で実施した発掘調査は17件である。このうち、本調査を実施した12件について、時代ごとの成果を概観する。

弥生時代～古墳時代 羽子田遺跡における2件の調査では、古墳時代を中心とした遺構を多数検出した。遺跡南西端で実施した第30次調査では円形プランの竪穴住居跡を検出した。居住区が本調査地まで拡がることが判明したため、遺跡の範囲を再考する必要がある。遺跡中央部の第31次調査では、弥生時代後期末から古墳時代初頭までの集落遺構と、古墳時代中期から後期までの古墳を



第5図 田原本町の遺跡と調査地点 (1:40,000)

検出した。また、畝状遺構や皮袋形土器等の特殊な遺構・遺物を確認している。今後さらに周辺の調査を重ねることで、集落や羽子田古墳群の実態が明らかになるであろう。

町南部の秦庄遺跡の調査では、古墳時代の遺構や遺物包含層を確認した。2件の調査とも遺跡北端における小規模な調査であるが、古墳時代中後期の集落遺構を検出している。当時期の集落が現在の秦庄集落まで広がることが予想される。

この他、清水風遺跡や法貴寺北遺跡でも当時期の遺構を検出している。

古代・中世・近世 古代では、町北部の清水風遺跡の調査成果が大きい。土馬、製塩土器、石製丸網等が出土しており、これらの出土遺物や下ッ道推定ラインに隣接する立地から、清水風遺跡は官衛的要素をもち合わせている可能性が考えられるようになった。

中世では、西竹田遺跡、法貴寺齊宮前遺跡、秦庄遺跡の各遺跡で遺構を検出している。西竹田遺跡では中世の区画溝を、秦庄遺跡では中世から近世の建物跡を検出した。また、注目される遺物として、法貴寺齊宮前遺跡出土の奈良三彩片がある。

第7表 2006年度 発掘調査一覧表

遺跡名	調査回数	調査地	原因者	原因	調査期間	調査面積	時期	調査担当	備考
1 羽子田	第30次	田原本町293番	個人	個人住宅の建築	2006.11.21 ～11.22	16㎡	弥生・古墳 古代	奥谷和之	国庫補助事業
2 羽子田	第31次	田原本町新町 71、72、93番1	個人	分譲住宅の造成	2007.1.10 ～2.22	382㎡	弥生・古墳 中世・近世	清水琢哉 奥谷知日朗	受託事業
3 清水風	第5次	田原本町八田 368番1	田原本町	農道改良工事	2006.11.9 ～11.25	244㎡	古墳・古代 中世	清水	産業振興課
4 法貴寺北	第4次	田原本町法貴寺 1454番1他西側道路	田原本町	道路改良工事	2006.11.1 ～11.3	23.4㎡	弥生・古墳 中世	奥谷	建設課
5 法貴寺北	第5次	田原本町法貴寺 1408番1	田原本町	農道改良工事	2006.11.21 ～12.5	101㎡	弥生・古墳 中世・近世	奥谷	産業振興課
6 法貴寺 齊宮前	第6次	田原本町法貴寺 1692番2内側道路他	田原本町	下水道工事	2006.10.17 ～10.19	9㎡	中世・近世	清水	下水道課
7 阪手	第4次	田原本町千代 389番1	個人	賃貸住宅の建築	2006.10.24 ～10.31	106㎡	近世	奥谷	受託事業
8 千代	第7次	田原本町千代 684番	個人	個人住宅の建築	2006.11.27	6㎡	近世	清水	国庫補助事業
9 秦庄	第6次	田原本町宮森 355番	個人	個人住宅の建築	2006.9.12 ～9.15	14㎡	古墳・中世 近世	清水・奥谷	国庫補助事業
10 秦庄	第7次	田原本町宮森 358番	個人	個人住宅の建築	2006.10.2 ～10.4	3㎡	古墳・中世	清水	国庫補助事業
11 西竹田	第2次	田原本町西竹田 117番南側道路他	田原本町	下水道工事	2006.7.21 ～7.25	6㎡	中世・近世	清水	下水道課
12 矢部 中曾司	第1次	田原本町矢部 484番1西側道路	田原本町	道路改良工事	2006.11.28 ～12.7	76㎡	古墳・古代	奥谷	建設課

所在地 田原本町小字有田293番

調査面積 16㎡

調査原因 個人住宅の建築

担当者 豆谷和之

調査期間 2006.11.21～11.22

遺物量 1箱

位置・環境

羽子田遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。遺跡は、弥生時代中期～古墳時代前期の集落跡、古墳時代前期末～後期の古墳群などで構成される複合遺跡である。

今回の調査地は、遺跡南端に位置する。これまでに周辺では、平成9年度に第13次調査、平成14年度に試掘調査をおこない、遺跡縁辺部の可能性が高いものと想定されていた。調査は個人住宅の新築に伴うもので、基礎部分での改良柱状杭が予定されていたため、発掘によって遺物包含層および遺構の有無の確認をおこなうこととした。

調査概要

弥生時代後期?～古墳時代初頭：竪穴住居跡1棟

古墳時代：土坑1基

古墳時代～古代：小溝2条

不明：柱穴2基

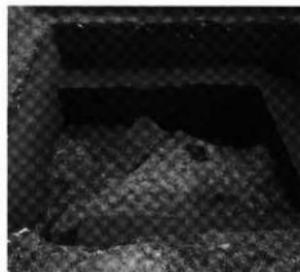
竪穴住居跡は、本調査区内だけの情報ではあるが、直径6m程度の円形と考えられる。出土遺物は少なく、土器は弥生土器から布留0式までを含む。サヌカイト片も含んでいることを勘案するならば、弥生時代後期の範疇でとらえるべきか。土坑は、古墳時代中期の土師器が出土し、底面は砂層に達することから井戸と考えられる。また、厚い遺物包含層には黒色土器片や瓦器片を含んでおり、古代にかけても居住域であった可能性は高い。

まとめ

今回は、羽子田遺跡の範囲南端における調査であった。しかし、予想に反し、厚い遺物包含層とともに、残存状態の良好な竪穴住居跡や土坑などの遺構を検出した。今回の成果により遺跡範囲の再検討が必要となった。



1. 調査地点の位置 (15,000)



2. 調査地全景 (西から)



3. 古墳時代の土坑 (東から)

2. 羽子田遺跡 第31次調査

(弥生・古墳・中世・近世)

所在地	田原本町大字新町小字池ノ内71番, 72番, 93番 1	調査面積	382㎡
調査原因	分譲住宅地の造成	担当者	清水琢哉・奥谷知日朗
調査期間	2007. 1.10～2.22	遺物量	75箱

位置・環境

羽子田遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に位置する。今回の調査地は、遺跡のほぼ中央にあたる。東側では第6次調査を、西側では第10次調査を実施しており、それぞれ羽子田古墳群に関わる遺構および古墳時代初頭の集落関連の遺構を検出している。

調査概要

弥生時代後期～古墳時代前期：

井戸3基、土坑2基、溝6条、小溝群

古墳時代後期：溝9条、木棺墓？1基

中近世：素掘小溝群

弥生時代後期末の集落が拡がることを確認した。井戸3基のうち、SK-2105が大和第Ⅵ-4様式、SK-2103が庄内1式、SK-2104が庄内2式頃と考えられる。また、大和第Ⅵ-4様式頃の小溝群は北東-南西方向が中心で、一部北西-南東方向のものが交差する。畝状遺構とも類似しており、集落内の畑作に伴う遺構である可能性が考えられる。

古墳時代後期の溝は方墳3基を構成するものとみられる。第2トレンチ北半のものを羽子田20号墳、南半のものを羽子田21号墳とする。また、第1トレンチ西半で検出した東西方向の大溝下層から円筒埴輪片が出土しており、これも古墳となる可能性が高い（羽子田22号墳）。

まとめ

調査の結果、羽子田遺跡の集落遺構および羽子田古墳群を構成する方墳3基を検出することができた。特に、弥生時代末～古墳時代初頭にかけての遺構・遺物は比較的まとまっており、田原本町内では希少な庄内式段階の集落遺跡として評価することができよう。



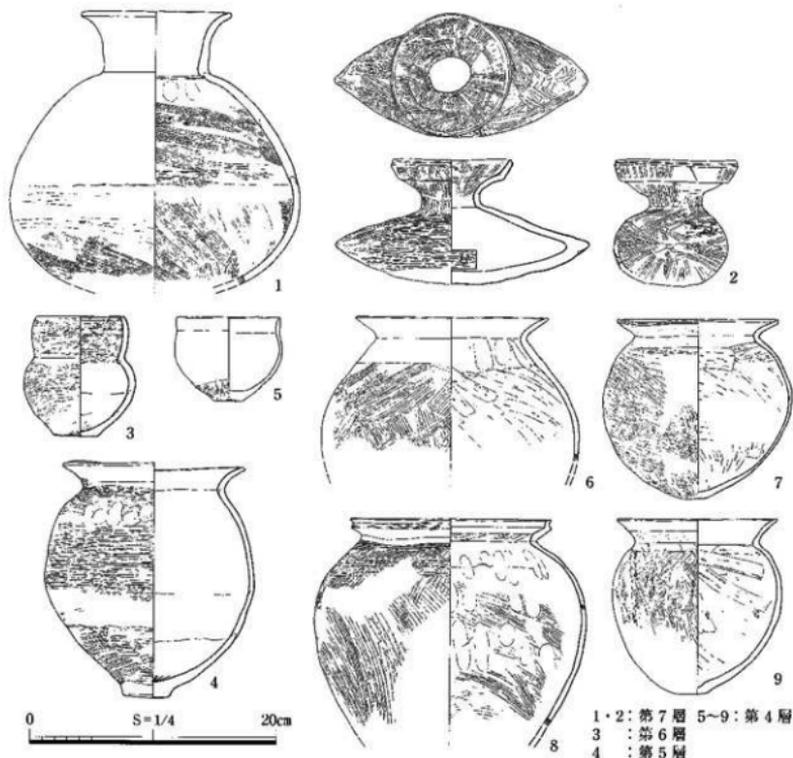
1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (南から)



3. SK-2106出土状況 (北から)

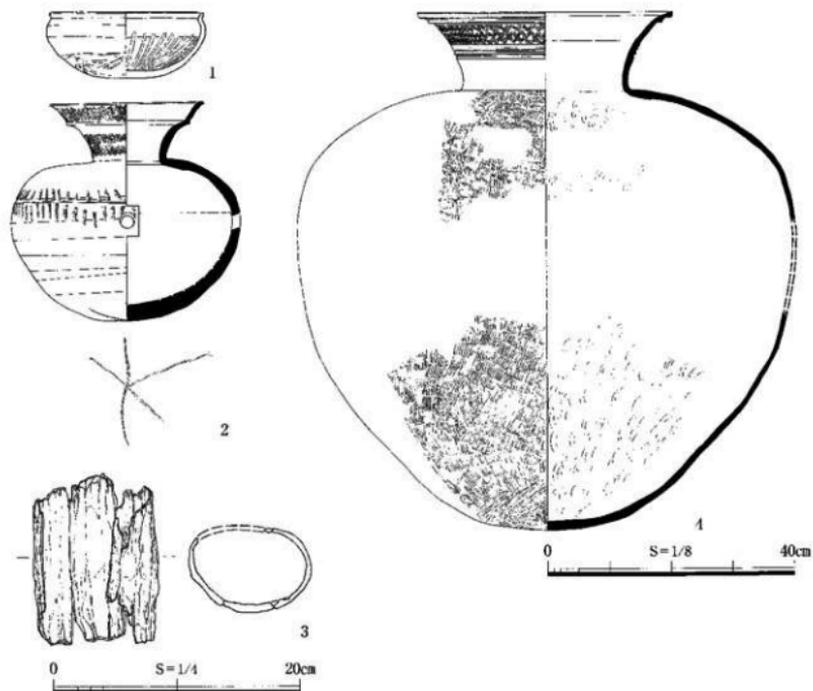


古墳時代初頭の異形土器

庄内期の井戸SK-2103の最下層から、異形土器が完形で出土した。胴部中央に焼成後の穿孔がみられるが、先端にも穿孔しかけた跡がある。弥生時代後期を中心に多くの出土事例がある鳥形土製品は先端に注口があることから、同様の使い方を意図して穿孔を試みたものであろう。ただし、皮袋の形を模倣したとされる皮袋形土器には注口をもたないものが多く、製作当初の注口をもたない本事例は皮袋形土器として取り扱うのが適当だろう。皮袋形土器は、物資の流通が広域化した庄内期に、半島系の知識を反映して登場したとみられる。しかし、本事例のように、既に定着していた鳥形土製品との混同・折衷が使用または模倣の段階で生じることもあったのであろう。

Column 1

羽子田遺跡 第31次調査
～古墳時代～



古墳周濠に伴う供献施設？

SK-2106は、羽子田21号墳の南側周濠内に掘削された土坑である。平面形は楕円形を呈し、長軸約1m、短軸0.5m、深さ0.2mを測る。

土坑内には、板材4枚が長方形の枠状に配置されていた。この枠の上には蓋板があったとみられるが、腐朽して一部が残るのみである。蓋板の上には土師器鉢（1）、須恵器盥（2）、筒状の木製品（3）が設置されており、蓋板が腐朽したためこれらの遺物は枠内に落ち込んだ状態で出土した。本土坑が埋没した後、須恵器大甕（4）が本土坑を覆うような状況で出土した。

底板は認められなかったが、本土坑は小児用木棺墓である可能性、あるいは古墳の供献施設である可能性が考えられる。

Column 2

羽子田遺跡 第31次調査
～古墳時代～

所在地 田原本町大字八田小字奥西368番1

調査面積 244㎡

調査原因 農道改良工事

担当者 清水琢哉

調査期間 2006.11.9～2006.11.25

遺物量 5箱

位置・環境

清水風遺跡は、奈良盆地の中央、標高46m前後の沖積地に位置する。北側500mには初瀬川が北西方向に流れる。これまでの調査で弥生時代中期の河跡や建物跡等を検出しているほか、弥生時代中期前半および後期末頃の方形周溝溝を検出している。唐古・鍵遺跡の北側500mに位置することから、唐古・鍵遺跡と密接な関係を持った集落および墓域である可能性が考えられている。

今回は、遺跡北東部でおこなわれた農道改良工事に伴う調査である。工事延長350m余りのうち、遺跡の範囲内となる85mについて発掘調査をおこなった。

調査概要

古墳時代：溝2条

古代：溝2条、土坑1基

中世：素掘小溝群

調査では、古代～中世の遺構面、古墳時代の遺構面の2面を検出した。古墳時代の溝からは布留式新段階の甕1点が出土した。また、古代の溝からは足跡状の窪みが多数検出されたほか、須恵器甕や土馬、多数の製塩土器等が出土した。

まとめ

今回の調査では、古代の遺物が多く出土した。特に、石製丸鋸、土馬、製塩土器が出土したことから、官衛的な施設が存在した可能性が考えられる。

鎌倉時代の本調査地は耕作地であった。延久3年(1070)の「興福寺雑役免庄坪付帳」によれば、周囲に竹田南庄の公田畠が分布する。したがって、本調査地は竹田南庄の水田域だったようである。



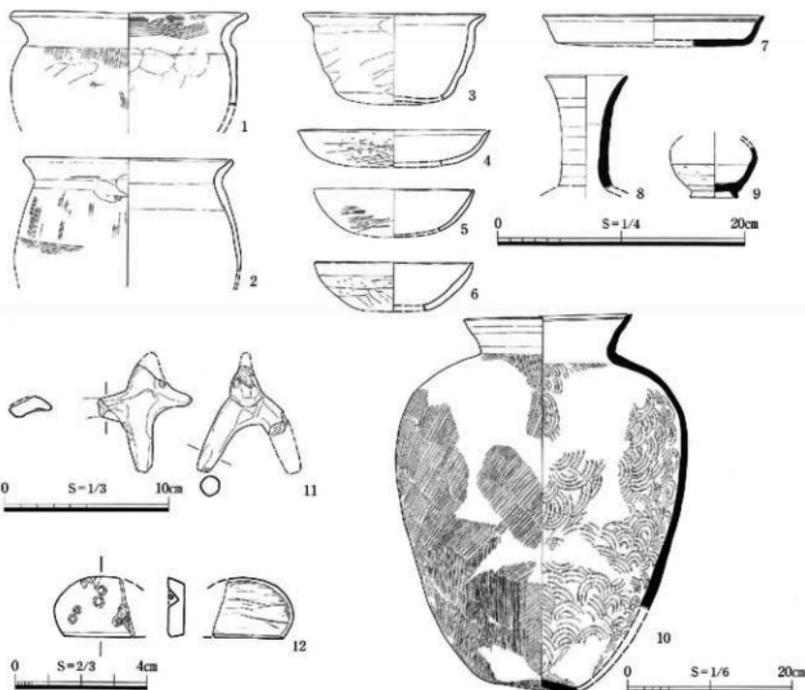
1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (北から)



3. 古代の溝 (南から)



清水風遺跡から出土した官衙的な遺物

本調査で出土した奈良時代の遺物を紹介する。製塩土器については別稿（IV、資料の報告）を参照されたい。

1～11は、大溝SD-101下層から出土した遺物である。11は土馬で、頭頂部および胴部後半を欠く。12は中世素掘小溝から出土した石製丸軈である。石材は黒色粘板岩とみられる。

本調査では、製塩土器も多く出土している。製塩土器がまとめて出土する遺跡の多くは、都城または官衙に関連があるとされている。本遺跡の立地は、西側に下ッ道、北側に初瀬川が近接しており、このような状況から考えると、下ッ道と大和川の水運とが交わる物資流通上の拠点であった可能性がある。

なお、西方で実施した第2次調査でも土馬や軒丸瓦が出土しており、遺跡の範囲および具体的な性格の解明は今後の課題である。

Column 3

清水風遺跡 第5次調査
～奈良時代～

所在地 田原本町大字法貴寺1454番1他 西側道路

調査原因 道路改良工事

調査期間 2006.11.1～11.3

調査面積 234㎡

担当者 豆谷和之

遺物量 1箱

位置・環境

法貴寺北遺跡は、標高48m前後の沖積地に立地する。県立志貴高等学校の建設に伴う第1次調査では、弥生時代後期の方形周溝墓2基・壺棺墓2基、古墳時代前期の土塚墓1基などが検出されている。また、昨年度の第3次発掘調査では、志貴高等学校の南側には弥生～古墳時代の河跡と中世の素掘小溝群の拡がることが明らかとなった。

今回は志貴高等学校の西側を走る南北道路の西側擁壁部分約140mが調査対象となった。調査は、第3次調査により付近が河跡堆積内であると予想されたため、約20m間隔で2×2mのトレンチを7ヶ所設定し、遺物包含層および遺構面の把握をおこなった。

調査概要

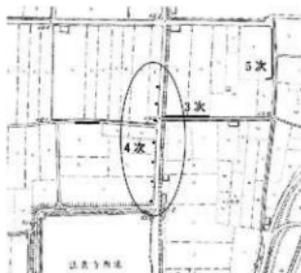
弥生時代～古墳時代：河跡1条

中世：素掘小溝多数

調査区の大半が、弥生時代の河跡堆積内となる。わずかに最も南側のトレンチで、河跡の南肩となる黒褐色粘質土を検出している。埋没した河跡の上面には、中世素掘小溝が掘削される。

まとめ

今回の調査地の大半は弥生～古墳時代の河跡堆積内であり、昨年度おこなわれた第3次調査の成果を検証するものとなった。また、南肩を検出したことにより、第1次調査において志貴高等学校グラウンドで検出されていた北肩との関係から、本河跡が幅約300mにおよぶ谷地形の堆積であることが判明した。そして、中世段階には平坦な耕作地となっていたことが想定される。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第3トレンチ全景 (南から)



3. 第1トレンチ南壁層序 (北から)

5. 法貴寺北遺跡 第5次調査

(弥生・古墳・中世・近世)

所在地 田原本町大字法貴寺小字クラツマ1408番1

調査原因 農道改良工事

調査期間 2006.11.21～12.5

調査面積 101㎡

担当者 奥谷知日朗

遺物量 3箱

位置・環境

今回の調査地は、遺跡の南東部にあたる。北側隣接地の志貴高等学校建設時に実施した第1次調査では、弥生時代後期の方形周溝墓や河跡、中世の建物跡等を検出している。第1次調査で検出された方形周溝墓より、本遺跡は唐古・鍵遺跡の墓域である可能性が考えられている。

調査概要

弥生時代～古墳時代：溝1条、河跡1条

中近世：素掘小溝群、河跡1条

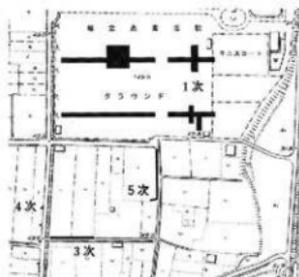
本調査地の遺構検出面は2面である。弥生時代～古墳時代の下層遺構については、調査区の一部のみ平面的な調査をおこない、庄内期の溝1条を検出した。

なお、古代の遺構は確認されていないが、当時期の土器や「延喜通寶」とみられる銭貨が出土している。

まとめ

調査の結果、調査区南半は弥生時代～古墳時代の河跡にあたり、その北岸に古墳時代前期の遺構・遺物包含層が形成されていることが判明した。この河跡の詳細は明らかにできなかったが、周辺の調査で確認しているものと一連であると考えられ、南東-北西方向に流れていたとみられる。調査区北半から志貴高等学校にかけた一帯に安定した土地が拡がっており当時期の墓域が拡がっていたと推測される。

中近世では目立った遺構が確認されなかったものの、古代の遺物や中世瓦が多数出土している。調査地東側の小字「ママノ垣内」付近に中世寺院の存在も考えられ、今後の調査で留意する必要がある。



1. 調査地点の位置 (1:5000)



2. 調査地全景 (南から)



3. 中近世の河跡 (東から)

所在地 田原本町大字法貴寺1692番2 西側道路他

調査面積 9㎡

調査原因 下水道工事

担当者 清水琢哉

調査期間 2006.10.17～2006.10.19

遺物量 1箱

位置・環境

法貴寺齋宮前遺跡は、標高52m前後の沖積地に位置する。遺跡中央には齋宮神社が鎮座する。これまでの調査では、神社の東側で実施した第1次調査で平安時代頃の柱穴や井戸を検出しているほか、神社の西側で実施した第3～5次調査で古代の遺物を包含する河跡や中・近世の水路等を検出している。

今回の調査は、齋宮神社東側の南北道路における下水道工事に伴って実施した。隣接する第1次調査地点の成果から、平安時代後期頃の集落遺構が拡がるのが予想された。

調査概要

中世：素掘小溝3条、溝5条、土坑3基、柱穴1基

近世：溝3条

下水道の人坑3ヶ所で調査をおこなった。北より第1～3トレンチと呼称する。遺構面は近世・中世後期・中世前半の3面で、第1・第2遺構面はいずれの調査区でも南北方向の大溝内となっていた。第1トレンチでは、第3遺構面で屋敷地内とみられる土坑・柱穴を検出した。鎌倉時代前後の遺構とみられる。第2トレンチでは、第3遺構面で溝等を検出した。奈良三彩の皿1点が出土したが、出上遺構の時期と性格については遺物が少なく判断しがたい。

まとめ

調査の結果、中世屋敷地の拡がりを確認した。また、各トレンチで確認した近世溝は現道路と方向が一致しており、道に伴う側溝であった可能性が考えられる。なお、神社隣接地の第3トレンチ北端の状況から、参道に対応する部分に陸橋が伴っていた可能性がある。



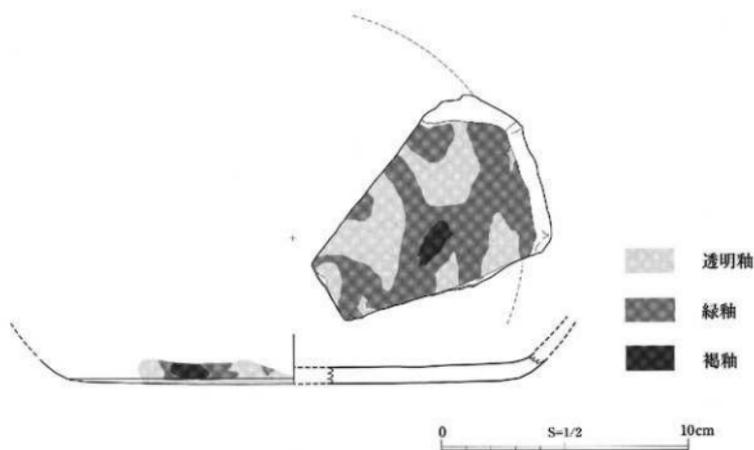
1. 調査地点の位置 (1:5000)



2. 第1トレンチ全景 (南から)



3. 第2トレンチ全景 (北から)



奈良三彩の大皿

今回の調査では、第2調査区から奈良三彩の破片1点が出土した。10.3×6.8cmの破片で、口縁部を欠損するため正確な器種は明らかでないが、底部径18.5cmの大皿である可能性が高い。

胎上はやや黄色みがかった白色で、内面を丁寧にナデで整えている。底部は回転ヘラ削りて整形されている。内外面の全体に透明釉を施し、底部以外に緑釉を網目状に塗彩する。そして褐釉を斑状に少数配している。

奈良三彩は、唐三彩を模倣して国内の官営工房で製造した陶器で、全国約400の遺跡・地点での出土が報告されている。平城京内からの出土が多いが、全国の官衙や寺院からの出土事例も多く報告されている。なお、鉢・大皿等の大形の器種は寺院周辺で出土する事例が多い。これは、仏教関連の法要などで供物を載せるための器として使われていたことを示すのであろう。今回出土した奈良三彩片は比較的大形品に属することから、その位置づけについては付近の寺院、特に齋宮寺や法貴寺との関連が注目される。

Column 4

法貴寺齋宮前遺跡 第6次調査
～奈良時代?～

所在地 田原本町大字千代小字北鴨田389番1

調査面積 106㎡

調査原因 賃貸住宅の建築

担当者 奥谷知日朗

調査期間 2006.10.24～10.31

遺物量 1箱

位置・環境

阪手遺跡は、標高52m前後の沖積地に立地する遺跡である。1982年の奈良県立橿原考古学研究所による第1次調査では、弥生時代後期の溝や井環等を確認している。

今回、第1次調査地の南側隣接地で民間開発が計画された。当初の工事計画では、工事深度が地下遺構へ影響の及ばない範囲にとどまるのが不明であったため、本地における遺構検出面の深さを確認することを目的として試掘調査を実施した（S-200602）。試掘調査の結果、当初の工事計画は遺構保護層が確保されていることが確認された。しかし、試掘調査の後、工法の変更がなされ、工事による地下遺構に影響が確実となった。このため、本調査を実施することとなった。

調査概要

近世：素掘小溝群

時期不明：足跡状遺構

調査地中央では、平面径10cm前後、深さ5cm前後の多数の窪みを検出した。足跡である可能性が考えられる。

まとめ

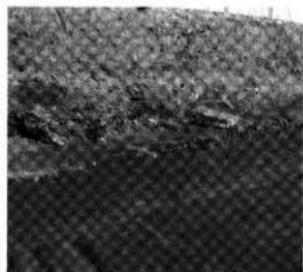
調査の結果、弥生時代に所属する遺構は検出されなかった。当時期の遺物も非常に少ない。第1次調査で検出した溝がどちらに延びるかは不明で、今後の調査で確認していく必要がある。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (西から)



3. 北壁層序 (南西から)

8. 千代遺跡 第7次調査

(近世)

所在地	田原本町大字千代小字中垣内684番	調査面積	6㎡
調査原因	個人住宅の建築	担当者	清水琢哉
調査期間	2006.11.27	遺物量	1箱

位置・環境

千代遺跡は、標高53m前後の沖積地に位置する。遺跡西部の八条環濠集落を中心とする中・近世集落跡、東部の遺物散布地の2つから成る複合遺跡である。

今回の調査は、江戸時代に八条集落から分離して成立したと伝えられる阿部田集落内における個人住宅の建築に伴って実施した。阿部田集落は、東西方向の水路の兩岸に道路を配し、それに沿って屋敷が建ち並ぶ形で形成されている。環濠集落を基本とする奈良盆地低地部の他の集落と比較して大きく景観が異なる。調査により、この集落の形成過程とその時期について解明されることが期待された。

調査概要

近世：柱穴4基、土坑1基

調査では、江戸時代の遺構面で柱穴、土坑を検出した。ただし、遺物が希薄であるため、詳細な時期を明らかにすることはできなかった。なお、江戸時代の遺構面は、中世頃の耕作土とみられる灰色粘土層上に厚さ0.4m前後の暗茶灰色粘質土を造成することで形成されていた。このことから、江戸時代に阿部田集落が形成される以前は耕地であったと考えられる。

まとめ

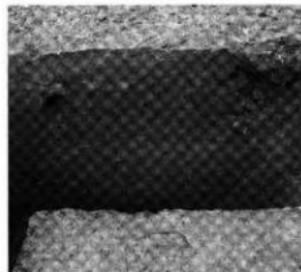
調査の結果、江戸時代の屋敷地の形成過程を確認することができた。ただし、この地点の成果を阿部田集落全体に敷衍して考えることができるかどうかは、今後の調査によって確認する必要があるだろう。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (東から)



3. 東壁層序 (西から)

所在地 田原本町大字宮森小字北垣内355番

調査面積 14㎡

調査原因 個人住宅の建築

担当者 清水琢哉・奥谷知日明

調査期間 2006.9.12～2006.9.15

遺物量 4箱

位置・環境

秦庄遺跡は、標高53m前後の沖積地に立地する。奈良県立橿原考古学研究所が実施した第1次調査では6世紀前後の集落を検出したほか、自然河道から出土した遺物から遺跡北東部に古墳時代前期末頃の集落域が拡がることを予測していた。そして、遺跡北東部で実施した第3次調査において布留3式頃の集落遺構を検出したことで、秦庄遺跡の範囲がそれまでの想定より北側に拡がるのが判明した。

今回の調査は、第3次調査の成果を受けて北東側に拡張された遺跡範囲の北端で実施した。調査により、遺跡の拡がりについて把握できることが予想された。

調査概要

古墳時代：柱穴2基

中世：溝1条、土坑1基、柱穴群

近世：土坑6基

中世の礎石を伴う柱穴を多数検出した。中世の屋敷地となる可能性が高い。また、下層遺構の確認のために一部深掘りをおこなった結果、古墳時代とみられる柱穴2基を検出した。

まとめ

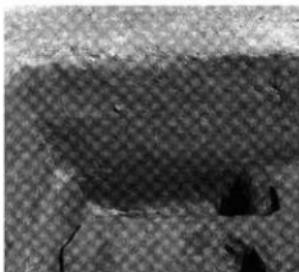
今回の調査では、古墳時代の秦庄集落の拡がりを確認することができた。本調査地点の北側道路および北東20mの地点でおこなわれた下水道の開削工事で古墳時代の遺物が出土しており、遺跡の範囲は本調査地よりもさらに北側に拡張する必要があると考えられる。また、中近世の屋敷地に伴う遺構を比較的まとめて検出しており、宮森集落に関連する遺構の拡がりについても今後検討する必要がある。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (北から)



3. 東壁層序 (西から)

10. 秦庄遺跡 第7次調査

(古墳・中世)

所在地	田原本町大字宮森小字北垣内358番	調査面積	3㎡
調査原因	個人住宅の建築	担当者	清水琢哉
調査期間	2006.10. 2～2006.10. 4	遺物量	1箱

位置・環境

今回の調査地は、秦庄遺跡の北端、標高53m前後の沖積地に位置する。第6次調査地点から西側へ40mの地点である。第6次調査で明確な古墳時代の遺物包含層を確認していたことから、その拡がり確認できることが期待された。

調査概要

古墳時代：溝3条、河跡？1条

中世：素掘小溝群

調査区西端で検出した河跡は、古墳時代後期に埋没する。なお、本調査地点では第3・6次調査で確認した黒褐色粘質土の古墳時代後期の遺物包含層が認められない。集落域からややはずれた場所となる可能性がある。

鎌倉時代の素掘小溝群が拡がることから、鎌倉時代の本調査地周辺は耕地であったと考えられる。本調査地の室町時代頃の状況は明らかでないが、本調査地付近が屋敷地となったのは近世とみられる。

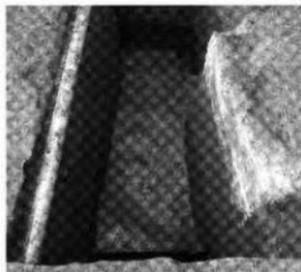
まとめ

今回の調査により、遺跡の北西端が明らかとなった。但し、調査区が狭小であるため、本調査の結果だけをもって遺跡範囲を確定することには問題があり、今後のさらなる調査によって遺跡範囲の確定をおこなっていく必要がある。

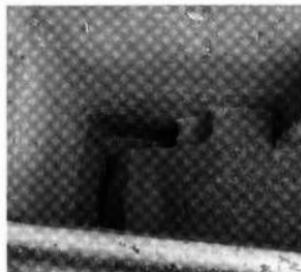
なお、第6次調査で検出した中世集落関連の遺構は本調査地まで拡がらないことが確認された。耕地であった可能性が高く、中世宮森集落の構造についてもさらに検討していく必要があろう。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (東から)



3. 北壁層序 (南から)

所在地	田原本町大字西竹田117番 南側道路他	調査面積	6㎡
調査原因	下水道工事	担当者	清水琢哉
調査期間	2006.7.21～7.25	遺物量	1箱

位置・環境

西竹田遺跡は、標高45m前後の沖積地に位置する。第1次調査で近世の大溝が検出され、西竹田環濠集落の構造について具体的に知る手がかりが得られた。

今回の調査は、西竹田集落北東部および北西部での下水道工事に伴うもので、人坑設置予定箇所4ヶ所で調査を実施した。

調査概要

中世：溝4条

近世：溝1条

各調査区で室町時代頃の大溝を確認した。特に第1トレンチで検出したSD-1051は深さ1.4m前後を測る東西方向の大溝で、西竹田集落北東部における環濠的な役割を担う大溝であった可能性がある。また、第4トレンチで検出した東西方向の大溝SD-4051は、深さを含めた規模は不明であるものの、西竹田集落北端を区画する大溝となる可能性がある。遺物は希薄であるが、室町時代前後の遺構となるであろう。第2・第3トレンチでは、現道路と方向の一致する中世の溝を検出している。遺物は少ないが、室町時代頃の遺構となるであろう。

まとめ

今回の調査では、西竹田集落北東部および北西部に室町時代前後の大溝が存在することが明らかとなった。これが中世西竹田集落の環濠となる可能性も考えられるが、遺物が比較的少ないこともあり、その位置づけには慎重な検討が必要である。また、現在道路となっている部分に現地割りと同方向の一致する中世の溝跡が確認できることから、中世段階の地割りが近世以降の集落構造に大きく影響していることが考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5000)



2. 第1トレンチ全景 (東から)



3. 第4トレンチ全景 (東から)

12. 矢部中曾司遺跡 第1次調査

(古墳・古代)

所在地	田原本町大字矢部484番1 西側道路	調査面積	76㎡
調査原因	道路改良工事	担当者	豆谷和之
調査期間	2006.11.28～12.7	遺物量	1箱

位置・環境

矢部中曾司遺跡は、標高50m前後の沖積地に立地する。これまで、遺跡として周知されていなかったが、平成17年度に田原本町建設課が矢部集落の南側でおこなった道路改良工事において、その擁壁基礎の掘削部分より土師器・須恵器等の破片が出土した。これを契機とする周辺の踏査によって南北200m、東西125mの範囲で遺物散布が確認されたことから、小字名をとって矢部中曾司遺跡とし、県に遺跡異動届（平成18年4月13日付 田教文第43号）を提出した。

今回の調査は、前年度に続く道路改良工事の南側延長に伴うものである。道路改良工事は総延長114mであったが、調査の過程において大半が河跡内であることが判明したため、層位および河跡の範囲を確認する3ヶ所のトレンチ調査とした。

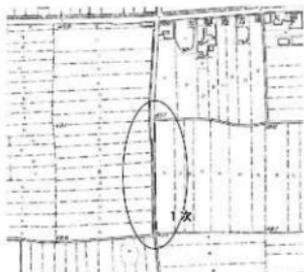
調査概要

古墳時代～古代：河跡

調査区の大半が河川堆積内であるが、最も北側のトレンチの北端において暗褐色粘土の北層を検出している。河川堆積層は、シルトや微砂からなり、色調は明黄色や青灰色を呈する。その上面には、最終堆積として遺物を含んだ暗青灰色粘土や黒灰色粘土が堆積していた。

まとめ

調査の結果、調査地の北端でわずかに北層を確認するにとどまり、大半が河跡内という遺跡縁辺部の様相を呈していた。矢部中曾司遺跡としては、今回の調査地の北側となる昨年の工事部分が、微高地であり遺跡本体になると考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (北から)



3. 第2トレンチ全景 (北から)

(2) 試掘調査と工事立会の概要

2006年度（平成18年度）に実施した試掘調査は5件、工事立会は22件で、第8・9表に示すとおりである。試掘調査5件のうち、阪手遺跡（S-200602）、千代遺跡（S-200603）の調査では、顕著な遺構・遺物を確認しておらず、残りの3件について概要を報告する。小阪安田前遺跡（S-200604）の試掘調査は、小阪集落南端の周知の遺跡外でおこなったもので、古墳時代から中世の遺構・遺物を検出し、この成果により遺跡として認識する必要が生じた。平成19年度に新規確認の遺跡「小阪安田前遺跡」として遺跡の異動をおこなう予定である。千代遺跡（S-200601）では中世の河跡を、秦楽寺遺跡（S-200605）では古墳時代と中世の遺構を検出した。

工事立会では、秦庄遺跡と羽子田遺跡で古墳時代の遺構を、法貴寺遺跡と西竹田遺跡で中近世の遺構を確認した。



第6図 山原本町の遺跡と試掘調査・工事立会地点（1：40,000）

アルファベット：試掘調査
アラビア数字：工事立会

第8表 2006年度 試掘調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	発掘 経緯	進達日	調査日	調査 面積	担当者	遺物量
A	千代遺跡 (S-200601)	田原本町千代1118番1	個人	賃貸住宅の建築	26	06.5.29	06.7.3 ～7.4	22㎡	清水	1箱
B	阪手遺跡 (S-200602)	田原本町千代389番1	個人	賃貸住宅の建築	40	06.7.14	06.7.25	5㎡	豆谷	なし
C	千代遺跡 (S-200603)	田原本町千代 949番1、950番	明日香運送 株式会社	倉庫の建築	56	06.8.31	06.9.5	10㎡	清水 奥谷	なし
D	小阪安田前遺跡 (S-200604)	田原本町小阪316番	個人	遺跡の有無確認	471	07.2.16	07.2.22 ～2.27	312㎡	豆谷	1箱
E	秦奈寺遺跡 (S-200605)	田原本町秦奈庄236番1、 236番8、236番10	産業振興課	ため池改修工事	110	07.1.24	07.2.27 ～3.3	24㎡	清水 奥谷	10箱

千代遺跡 試掘調査 (S-200601)

(中世)

位置・環境

今回の調査地は千代遺跡の西半を占める八条集落の西端にあたる。調査地の西側に隣接して中世寺院跡の日光寺推定地が広がる。調査地の南側隣接地で実施した工事立会では顕著な遺構が確認されなかったことから、遺構の有無を確認する試掘調査を実施した。

調査概要

中世：河跡1条

調査区全域が、東南東-西北西方向の河跡にあたることが判明した。調査区南端でその南肩部を検出した。

河跡上層からは14～15世紀頃の瓦質土器片が、中層からは13～14世紀頃の瓦器が出土している。

まとめ

調査の結果、河幅15m以上を測る中世の河跡を検出した。八条集落の南西側には南東-北西方向の河川の痕跡があり、これが本地を経て寺川に合流していた可能性が考えられる。ただし、本地西側の小字「今堂」「日光寺」においては現行地割りから河川の痕跡は読みとれず、復元は難しい。今後の調査により日光寺推定地側での実態を確認していく必要がある。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (南から)

位置・環境

小阪安田前遺跡は、標高49m前後の沖積地に立地する。これまで遺跡として周知されていなかったが、小字松ノ下には須佐男神社を祀った塚状の高まりがあり、地元では前方後円墳とする伝承があった。今回、この須佐男神社東側の田圃において、青空駐車場への転用申請がなされたことを受け、造成前に埋蔵文化財の有無を確認するための調査をおこなった。

調査概要

古墳時代? : 溝(落ち込み) 1条

中世 : 土坑1基、溝4条

調査は、須佐男神社における塚状の高まりの性格を明らかにする目的で、これに接した東西に長いトレンチを設定した。その結果、塚状の高まりの東側辺に沿って中世大溝を検出し、さらにそれは東側へとL字に屈曲している事が判明した。これは、一段高くなった小字安田前の地割りに沿うものと考えられた。

なお、中世遺構に切られた暗褐色粘質土の溝状落ち込みを検出しており、これが塚状の高まりを取り巻いた区画溝となる可能性もある。遺物はほとんど出土しなかったが、本構を切った中世溝からは古墳時代初頭の土器が出土している。

まとめ

調査の結果、小字松ノ下の塚状の高まりの性格を明らかにすることはできなかったが、さらに北側の小字安田前までを開いたと考えられる中世の大溝を検出し、遺跡であることが明らかとなった。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 調査地全景 (東から)



3. 中世の溝 (南東から)

秦楽寺遺跡 試掘調査 (S-200605)

(古墳・中世・近世・現代)

位置・環境

秦楽寺遺跡は、大化3年(647)の創建と伝えられる寺院・秦楽寺の旧境内および中世の秦楽寺城を範囲とする遺跡である。中世後期まで当地域における寺院勢力として大きな位置を占めたが、元亀元年(1570)に松永久秀の攻略にあい、伽藍のほとんどが消失した。その後、寺院は18世紀に再興したが、往時の勢力は失われた。

今回の調査は、遺跡北端の秦楽寺池の護岸工事に伴うものである。次年度以降の本調査に向けた遺構の残存状況を確認するため、試掘調査を実施した。

調査概要

古墳時代? : 土坑1基、溝4条、柱穴1基

中世 : 溝2条、落ち込み5

近世～現代 : 池1面?

調査では、池の内側堤防沿いに8ヶ所のトレンチを設定した。その結果、全てのトレンチで遺構を検出した。

まとめ

今回の調査では、古墳時代中期、中世後期、近世以降の3時期の遺構を検出した。

池の北側のトレンチでは、東西方向の大溝とみられる落ち込みを検出した。時期は中世後半で、秦楽寺・秦楽寺城の北側環濠の可能性もある。池はこの大溝の区画に沿って築造されたと考えられる。

池の南西部の各トレンチでは、古墳時代中期の小溝や井戸などを検出した。この時期の集落遺跡としては、本遺跡の南側に隣接する秦庄遺跡がある。しかし、秦庄遺跡と本地の間で実施した秦楽寺遺跡第1次調査ではこの時期の遺構を確認していないことから、本地周辺に秦庄遺跡とはまた別の小規模な集落が広がっているものと考えられる。



1. 調査地点の位置 (1:5,000)



2. 第3トレンチ全景 (南から)



3. 第7トレンチ全景 (南から)

第9表 2006年度 工事立会一覧表

遺跡名	立会地	原因者	工事の目的	発着時間 (始末立会)	発着日	立会者	調査日	内容
1 寺内町遺跡 (R-200601)	田原本町638番	個人	個人住宅 の建築	102	2006.3.27	清水	2006.4.5	基礎掘削時に立会。掘削は現代産瓦屑 内にとどまる。工事実施。
2 金剛寺遺跡 (R-200602)	田原本町金剛寺 300番1	個人	農業用倉庫 の建築	100	2006.3.23	清水	2006.4.17	掘削工事の掘削時に立会。全体が中世 以降の河跡?埋積層内。
保津・ 宮古遺跡 (R-200603)	田原本町保津 113番・113番1、 114番1	個人	個人住宅 の建築	2	2006.4.13	清水	2006.5.15	基礎掘削時に立会。掘削は近世造成土 内にとどまる。客土中より弥生時代～中 世の遺物が多数出土、宮古池掘削に伴う崩 土を造成土に用いたか。工事実施。
4 中ノ道 (R-200604)	田原本町為川 南方78番2	フランス ・イブド ワ(株)	自家用倉庫 の建築	12	2006.5.16	清水	2006.5.17	基礎掘削時に立会。深さ0.6～0.9mで近 世堆積層検出。それ以下は近世前後の 河川堆積層か。
5 阪手北遺跡 (R-200605)	田原本町阪手 287番	個人	個人住宅 の建築	72	2005.11.30	清水	2006.5.18 5.20	基礎掘削部分及び下水管埋設時に立会。 下水管掘削部分では、敷地南端より6mの 地点で近世大溝北側とみられる青灰色粘 質土層の落ちを確認。
6 千代遺跡 (R-200606)	田原本町千代 756番1	個人	個人住宅 の建築	6	2006.4.26	清水	2006.5.22	耕土層の除去作業時に立会。一部を手掘り 掘削、順序を確認。細かな遺構なし。
7 阪手遺跡 隣接地 (R-200607)	田原本町千代 572番1、573番1	個人	店舗兼 共同住宅 の建築	-	-	清水	2006.6.19	阪手遺跡南側隣接地での開発。遺跡範囲 外であるが掘削工事時に立会。浅い自然 河とみられる落ちを確認。遺物はみられず。
8 千代遺跡 (R-200608)	田原本町千代 993番3	個人	宅地造成	34	2006.7.11	清水	2006.6.29	擁壁工事で深さ1.3m前後の掘削がおこな われたため。水田床土までの掘 削とみられるが、発掘届の提出を求める。
9 唐古・雄遺跡 (R-200609)	田原本町雄 71番2、71番3	羽アライ	分譲住宅 の建築	86	2006.2.9	清水	2006.7.10 9.7	遺跡南端での宅地開発。過去に1m前後 造成されている。基礎はベタ基礎で、深さ 0.3m程度の掘削にとどまる。
10 法貴寺遺跡 (R-200610)	田原本町法貴寺 341番東側道路地	田原本町	下水道工 事	24	2006.5.25	奥谷	2006.7.24 ～8.18	立坑掘削等で立会。深さ0.6m付近に中 近世遺構検出。中世溝や、近世大溝・ 河跡を検出。
11 西竹田遺跡 (R-200611)	田原本町西竹田 3番1西側道路地	田原本町	下水道工 事	16	2006.5.25	清水 奥谷	2006.7.26 ～9.21 10.2	掘削工事及び取付け工事時に立会。現 西竹田集落南東部では中世の大溝及び 古墳時代頃の河跡を検出。遺跡中心及び 西部では近世の大溝等を検出。
12 聖彦遺跡 (R-200612)	田原本町宮森 219番西側道路地	田原本町	下水道工 事	18	2006.5.25	清水 奥谷	2006.9.21 ～9.27	遺跡北側隣接地における掘削工事時に 立会。深さ1.5m前後で古墳時代頃の落ち 込みを検出。遺物や、布置3式頃の集落 が近接するとみられる。
13 養十寺南遺跡 (R-200613)	田原本町 三笠196番2	個人	個人住宅 の建築	68	2006.9.8	奥谷	2006.9.22	現地表面より1mまでの掘削、旧水田床土 にとどまる。
14 宮森遺跡 (R-200614)	田原本町新水 114番2他北側道路	田原本町	道路改良	64	2006.9.1	清水	2006.10.16	道路掘削工事に立会。掘削は 深さ0.4m前後で、水田床土にとどまる。
15 - (R-200615)	田原本町西竹田 257番1西側道路	田原本町	道路工事	-	-	清水 奥谷	2006.11.6	周知の埋蔵文化財発見地区の、南北50m におよぶ道路掘削工事。全体に地山層が 広がる。
16 奈佐遺跡 (R-200616)	田原本町宮森 230番5	社会福祉 法人 愛和会	保育園 の改築	92	2006.11.9	豆谷	2006.11.9	建築予定地北辺で立会。深さ約1.9mまで 客土、それより下層は溜池埋土。近代の陶 磁器片を含む。
17 矢部南遺跡 多遺跡(R-200617)	田原本町矢部 319番1～336番	田原本町	農業用水路 の設置	78	2006.10.12	豆谷	2006.12.1	U字溝の設置工事。現地表下約30cmの 掘削。現耕土層内に収まる。
18 遺物散布地 (I1-C-060) (R-200618)	田原本町大女寺 195番1	個人	農業用倉庫 の建築	42	2006.7.24	清水	2006.12.5	深さ20cmの表層改良工事。現耕土層内 に収まる。
19 法貴寺遺跡 (R-200619)	田原本町法貴寺 433-434-506番 合併3、433番6	個人	個人住宅 の建築	102	2006.12.5	清水	2006.12.20	工事立会時には、当初の予定にない柱状 改良がなされている状況であった。変更届 の提出を求める。
20 聖彦遺跡 (R-200620)	田原本町宮森 27番4	個人	個人住宅 の建築	84	2006.12.23	豆谷	2006.12.27	客土0.1mを除去、鋼管杭の打ち込み。
21 羽子田遺跡 (R-200621)	田原本町法貴寺 403番1、404番1、 404番6	個人	個人住宅 の建築	88	2006.11.6	豆谷	2007.1.10	現地表面から約0.3mの掘削。当初の予定 にない柱状改良がなされていることが判明。 変更届の提出を求める。
22 羽子田遺跡 (R-200622)	田原本町新町 71番、72番、 93番1	個人	分譲住宅 の造成	94	2006.11.15	清水 奥谷	2007.2.27 ～3.22	第31次調査地の内側掘削部分、および個人 住宅の下水道引き込み管設置工事。全体の に古墳時代包層部・遺構が広がる。ほぼ半 充形の須恵器器、円筒・形類形埴輪が出土。

法貴寺遺跡 工事立会 (R-200610)

(中世・近世)

位置・環境

法貴寺遺跡は、標高51m前後の沖積地に位置する。聖徳太子が創建し、その後秦河勝に与えられたとされる寺院「法貴寺」を中心とした中世～近世集落跡である。

今回の工事立会は、遺跡の南東端にあたる。下水道の立坑設置に伴うもので、道路部分が狭小であるため、工事立会に対応した。

検出遺構

中世：溝 1 条

近世：溝 3 条、河跡 1 条

中世の溝は立会地南東側を囲うようにL字に屈曲する。室町期とみられる土器片が出土している。

まとめ

今回の立会で中世の溝を確認したことから、本地まで中世の集落遺構が拡がることが判明した。



立会地点の位置 (1:5,000)

秦庄遺跡 工事立会 (R-200612)

(古墳)

位置・環境

今回の工事立会は宮森集落内の下水道工事に伴うものである。

検出遺構

古墳時代：土坑？ 1 基、溝？ 1 条

地表面より0.3～0.8m下が中近世の遺物包含層、地表面より0.8～1.3m下まで古墳時代の遺物包含層が堆積する。溝？は東西方向であり、布留3式頃とみられる。

まとめ

古墳時代前期の遺構および遺物包含層を検出した。本地の南西側隣接地で実施した秦庄遺跡第6次調査においても当該時代の遺構を検出していることから、本地まで古墳時代前期の集落が拡がることが確認された。



立会地点の位置 (1:5,000)

位置・環境

工事立会は分譲住宅の造成に伴うものである。本地で新たに敷設される道路部分については、羽子田遺跡第31次調査として調査を実施した。宅地造成の擁壁工事および北区造成地の下水道引き込み管設置工事については工事立会をおこなった。

検出遺構

古墳時代前期：溝1条

古墳時代中期：溝3条

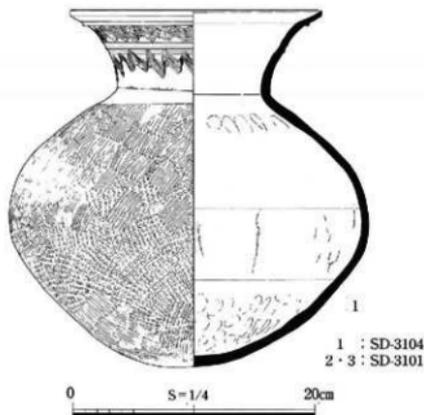
時期不明：土坑1基、溝3条

まとめ

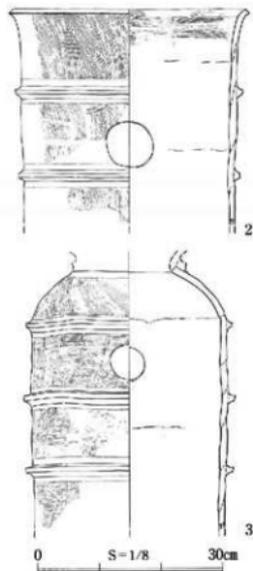
古墳時代に所属する遺構を多数検出した。既往の調査成果から、古墳時代前期の遺構は集落に伴うもの、中期の遺構は古墳に伴うものとみられる。本地周辺に弥生時代～古墳時代前期の集落と中後期古墳の遺構・遺物が高い密度で分布することを追認した。



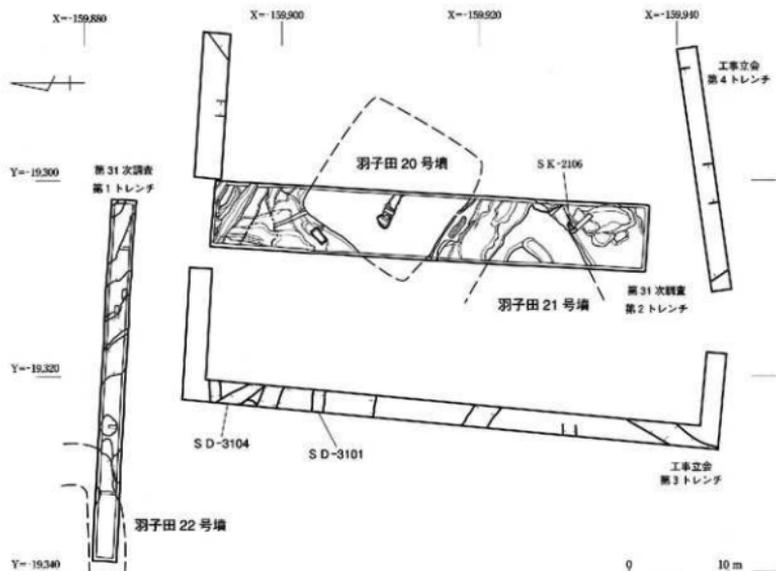
1. 立会地点の位置 (1:5,000)



1 : SD-3104
2・3 : SD-3101



2. 羽子田遺跡の工事立会出土遺物



羽子田古墳群

羽子田第31次調査及び工事立会で、羽子田古墳群の方墳数基を検出した。いずれも部分的な検出にとどまる。

20号墳は第2トレンチ北半で検出した6世紀中頃の方墳で、北西-南東方向の軸をもつ。墳丘部の全長約14mを測る。

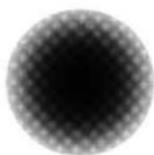
21号墳は、20号墳の南に接する方墳で、2辺のみの検出であるため規模は明らかでない。北西-南東方向の軸をもつ。

22号墳は、第1トレンチ西端で南側周濠のみを検出した。溝は西南西-東北東方向で、東端が北側に屈曲する。古墳本体は調査区の北西側に存在するとみられる。

立会調査では、第3トレンチ北半で5世紀代の埴輪を伴う溝SD-3101および5世紀後半の須恵器壺を伴う溝SD-3104を検出した。また、第3トレンチ中央および南端の溝も古墳時代とみられる。いずれも工事掘削後に層序のみで確認した遺構であるため、古墳としての平面プランを復元するには至らなかった。なお、SD-3101の円筒・朝顔形埴輪は埴輪棺となる可能性もある。

Column 5

羽子田遺跡 工事立会
～古墳時代～



II. 資料の整理と活用・普及

1. 埋蔵文化財の整理・保管

平成18年度の発掘調査・試掘調査・工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ113箱・ナイロン袋他（第1表）で、遺物量は前年度とほぼ同等である。これまでは唐古・鏡遺跡の範囲確認調査を実施していたため、遺物は多量であったが、居住区の調査はなく、このような低い数量になっている。本年度の中で全体の2/3を占めているのは羽子出遺跡の調査である。これは弥生時代から古墳時代前期の集落遺跡のためである。これ以外は町内の古墳時代以降の遺跡で5箱未満

第1表 平成18年度の埋蔵文化財保管数

調査番号	遺跡名	調査回数	明 細	遺物数量	
				現場後	洗浄後（土器・瓦）
H18-01	西竹田遺跡	第2次調査	土師器・瓦器等	1箱	1箱（ナ小・中1）
H18-02	兼庄遺跡	第6次調査	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・礎石等	4箱	3箱
H18-03	兼庄遺跡	第7次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	1箱
H18-04	法貴寺宮前遺跡	第6次調査	土師器・須恵器・瓦器・瓦等	1箱	1箱（ナ小23）
H18-05	阪手遺跡	第4次調査	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器等	1箱	1箱（ナ小13）
H18-06	法貴寺北遺跡	第4次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	1/2箱（ナ小24）
H18-07	清水風遺跡	第5次調査	土師器・須恵器・瓦器・石製品等	5箱	5箱
H18-08	羽子出遺跡	第30次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	1箱
H18-09	法貴寺北遺跡	第5次調査	弥生土器・土師器・瓦器・陶磁器・瓦・銭貨	3箱	3箱
H18-10	千代遺跡	第7次調査	土師器・須恵器等	1箱	ナ小4袋
H18-11	矢部中曾司遺跡	第1次調査	土師器・須恵器・陶磁器等	1箱	1/3箱（ナ小8）
H18-12	羽子出遺跡	第31次調査	弥生土器・土師器・須恵器・木製品・石製品・青銅製農文鏡等	75箱	洗浄途中
S-200601	千代遺跡	試掘調査	土師器・瓦器・瓦質土器・木製品等	1箱	1箱
S-200604	小阪安田前遺跡	試掘調査	土師器・須恵器・瓦器・埴輪・木製品等	1箱	1箱
S-200605	兼庄寺遺跡	試掘調査	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・瓦等	10箱	8箱（瓦5）
R-200602	金剛寺遺跡	工事立会	土師器1点・瓦器2点・瓦質土器1点	4点	4点
R-200603	保津宮古遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・瓦器等	ナ中1袋	42点
R-200604	中ツ道	工事立会	瓦器1点・陶磁器2点	3点	3点
R-200605	阪手北遺跡	工事立会	土師器1点・陶磁器2点・瓦1点	4点	4点
R-200606	千代遺跡	工事立会	陶磁器1点・瓦質土器1点	2点	2点
R-200610	法貴寺遺跡	工事立会	土師器・陶磁器・瓦・石造物	1箱	ナ小3
R-200611	西竹田遺跡	工事立会	土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・瓦等	1箱	1箱
R-200612	兼庄遺跡	工事立会	土師器・須恵器等	1箱	ナ小2
R-200622	羽子出遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪等	3箱	3箱

となる。

平成18年度に出土した遺物は、年度末に調査を実施した羽子田遺跡第31次調査の遺物が多量であったため、洗浄途中となっているが、他の遺物は全て洗浄を終了し、土器・石器・木製品等の項目による分別収納をおこなった（第2表）。調査終了時点での遺物総量は、111箱であるが、洗浄後の分別によって3/4程度に収納できる見通しである。なお、本整理は未着手である。遺物全体の種別内訳は、弥生土器・古式土師器と中近世の土器類が大半を占めた。この他、木製品や石製品がある。これ以外には金属器、土製品の人為物と木・石・種子などの自然遺物サンプルがあるがごくわずかである。

なお、注日される遺物には、羽子田遺跡第31次調査出土の青銅製小形仿製鏡・異形土器、清水風遺跡第5次調査の製塩土器・石帯、法貴寺窟官前遺跡第5次調査の奈良三彩の大皿片がある。

また、発掘調査や試掘調査に伴う図面や写真も整理して収納した（第3表）。

第2表 平成18年度調査の遺物種と数量

	遺跡名	調査回数	土 製 品	焼 土 塊	木 製 品	石 製 品	骨 製 品	金 属 器	紙 滓	漆 喰	木	石	獸 骨 ・ 貝	種 子	炭 化 米
II18-01	西竹田遺跡	第2次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-
II18-02	桑庄遺跡	第6次調査	1	4	4	-	-	3	-	-	-	16	-	-	-
H18-03	桑庄遺跡	第7次調査	-	○	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
H18-04	法貴寺窟官前遺跡	第6次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	5	-
H18-05	阪手遺跡	第4次調査	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
H18-06	法貴寺北遺跡	第4次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
II18-07	清水風遺跡	第5次調査	2	-	2	3	-	-	1	-	5	8	7	○	-
II18-08	羽子田遺跡	第30次調査	-	4	-	1	-	-	-	-	2	-	1	-	-
H18-09	法貴寺北遺跡	第5次調査	-	1	3	2	-	3	-	-	2	3	-	11	-
H18-10	千代遺跡	第7次調査	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
H18-11	欠部中曾司遺跡	第1次調査	-	-	2	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-
H18-12	羽子田遺跡	第31次調査	2	○	○	○	-	-	-	-	○	○	○	○	-
S-200601	千代遺跡	試掘調査	-	-	12	-	-	1	-	-	9	-	2	3	-
S-200604	小坂安田前遺跡	試掘調査	-	-	5	1	-	-	-	-	4	6	-	1	-
S-200605	桑末寺遺跡	試掘調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R-200603	保津・宮古遺跡	工事立会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R-200610	法貴寺遺跡	工事立会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
R-200611	西竹田遺跡	工事立会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
R-200622	羽子田遺跡	工事立会	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-

※ 少量遺物は、複数回数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことができないので、有（○）無（-）で示した。また、数量が表示されているものはコンテナ量である。

第3表 平成18年度調査の図面・写真保管数量

遺跡名	調査 回数	図面		35mm				4×5				6×7				
				カラー ポジ		モノクロ ネガ		カラー ポジ		モノクロ ネガ		カラー ポジ				
				現 場	遺 物	シ リ ト 数	コ マ 数	シ リ ト 数	コ マ 数	カ ット 数	枚 数	カ ット 数	枚 数	カ ット 数	枚 数	
II18-01	西竹田遺跡	第2次	7	-	3	49	2	50	-	-	-	-	-	-	-	
H18-02	楽庄遺跡	第6次	5	-	6	105	3	106	-	-	-	-	-	-	-	
II18-03	楽庄遺跡	第7次	4	-	3	49	2	49	-	-	-	-	-	-	-	
H18-04	法貴寺高宮前遺跡	第6次	5	-	3	51	2	50	-	-	-	-	-	-	-	
II18-05	阪手遺跡	第4次	10	-	3	56	2	56	-	-	-	-	-	-	-	
H18-06	法貴寺北遺跡	第4次	7	-	7	135	4	136	-	-	-	-	-	-	-	
H18-07	清水風遺跡	第5次	17	4	8	155	5	155	-	-	-	-	-	-	-	
H18-08	羽子田遺跡	第30次	4	-	3	44	2	46	2	4	2	4	-	-	-	
II18-09	法貴寺北遺跡	第5次	15	-	6	114	4	117	-	-	-	-	-	-	-	
H18-10	千代遺跡	第7次	2	-	1	15	1	15	-	-	-	-	-	-	-	
II18-11	矢部中曾司遺跡	第1次	9	-	5	95	3	91	-	-	-	-	-	-	-	
H18-12	羽子田遺跡	第31次	46	12	25	490	14	486	8	16	8	16	-	-	-	
S-200601	千代遺跡	試掘調査	6	2	2	52	2	53	-	-	-	-	-	-	-	
S-200602	阪手遺跡	試掘調査	1	-	1	12	1	12	-	-	-	-	-	-	-	
S-200603	千代遺跡	試掘調査	2	-	1	17	1	16	-	-	-	-	-	-	-	
S-200604	小坂安田前遺跡	試掘調査	6	-	5	98	3	88	-	-	-	-	-	-	-	
S-200605	楽楽寺遺跡	試掘調査	9	-	11	202	7	220	-	-	-	-	-	-	-	
R-200601	寺内町遺跡	工事立会	-	-	1	4	1	4	-	-	-	-	-	-	-	
R-200602	金剛寺遺跡	工事立会	-	-	0	4	0	4	-	-	-	-	-	-	-	
R-200603	保津・宮古遺跡	工事立会	-	-	0	7	0	8	-	-	-	-	-	-	-	
R-200604	中ツ道	工事立会	-	-	0	3	0	3	-	-	-	-	-	-	-	
R-200605	阪手北遺跡	工事立会	-	-	1	3	0	3	-	-	-	-	-	-	-	
R-200606	千代遺跡	工事立会	-	-	0	4	1	4	-	-	-	-	-	-	-	
R-200609	唐古・巖遺跡	工事立会	-	-	0	3	0	5	-	-	-	-	-	-	-	
R-200611	西竹田遺跡	工事立会	-	-	1	20	0	21	-	-	-	-	-	-	-	
R-200619	法貴寺遺跡	工事立会	-	-	0	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-	
R-200622	羽子田遺跡	工事立会	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
計			159	21	96	1,791	61	1,803	10	20	10	20	0	0	0	0

2. 資料の管理と製作

(1) 出土遺物の写真撮影と発掘調査写真のデジタル化

出土遺物については、報告書作成・保存処理に伴う緊急性の高い資料、企画展図録作成用としてアートフォト右文に撮影を委託した。

また、大判写真については、毎年発掘調査の遺構写真を中心にデジタル化をおこなっている。本年度は平成16・17年度に調査を実施し、保管した笹鉾山古墳群第5・6次調査他のデジタル化を(株)ホリウチカラーアーカイブサポートセンターに委託した。

第4表 写真撮影・デジタル化一覧

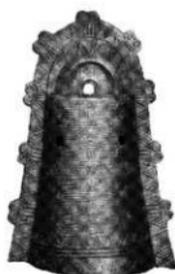
内容	遺跡名	資料名	フィルムサイズ	数量 (カット)	備考	
撮影	唐古・藤道跡 (第61次ほか)	青銅器・銅造関連遺物ほか	カラーポジ (4×5)	120	報告書用	
			モノクロネガ (4×5)	89		
			カラーポジ (6×6)	113		
			モノクロネガ (6×6)	97		
	羽子田遺跡 (第31次)	異形土器・青銅鏡	カラーポジ (4×5)	4		
			モノクロネガ (4×5)	3		
	清水風遺跡 (第5次)	石帯	カラーポジ (4×5)	2		
			モノクロネガ (4×5)	2		
	法興寺齋宮前遺跡 (第6次)	奈良三彩	カラーポジ (4×5)	2		
			モノクロネガ (4×5)	2		
	唐古・磯道跡ほか	青銅器・銅造関連遺物	カラーポジ (4×5)	17		秋季企画展
	多道跡ほか	土器・石器・木製品 ほか	カラーポジ (4×5)	12		春季企画展 速報展用
			モノクロネガ (4×5)	1		
—	銅器・銅製復元品	カラーポジ (4×5)	4	特別陳列用		
合 計			カラーポジ (4×5)	161		
			モノクロネガ (4×5)	96		
			カラーポジ (6×6)	113		
			モノクロネガ (6×6)	97		
デジタル化	笹鉾山古墳群 (第5・6次)	発掘調査 遺構写真	カラーポジ (4×5)	40	CD2枚	
	常楽寺推定地ほか (第5次)	発掘調査 遺構写真				

(2) 資料の製作

資料の製作は、考古学実践講座「青銅器の鑄造」の第3回公開体験学習に伴い、銅鐸の復元品を製作した。(株)和銅寛に製作を委託し、唐古・鍵遺跡出土の大型土製鑄型外枠をモデルとして、辰馬406号銅鐸を復元した。今後、小・中学校での教材として活用する予定である。

第5表 資料の製作一覧

資料名	登録番号	点数	法量				備考
			高さ	幅	奥行	重量	
銅鐸復元品	MR-復元-0049	1	55.5 cm	35 cm	20 cm	18 kg	
銅鐸鑄型復元品	MR-復元-0087-1	1	71 cm	50 cm	18 cm	30 kg	A面
銅鐸鑄型復元品	MR-復元-0087-2	1	71 cm	50 cm	18 cm	30 kg	B面



銅鐸復元品



銅鐸鑄型復元品 (鑄造前の鑄型A・B面)



銅鐸鑄型復元品 (鑄造後の鑄型A・B面)

3. 遺跡の整備

今年度は、国史跡 唐古・鍵遺跡の整備として、以下の事業をおこなった。

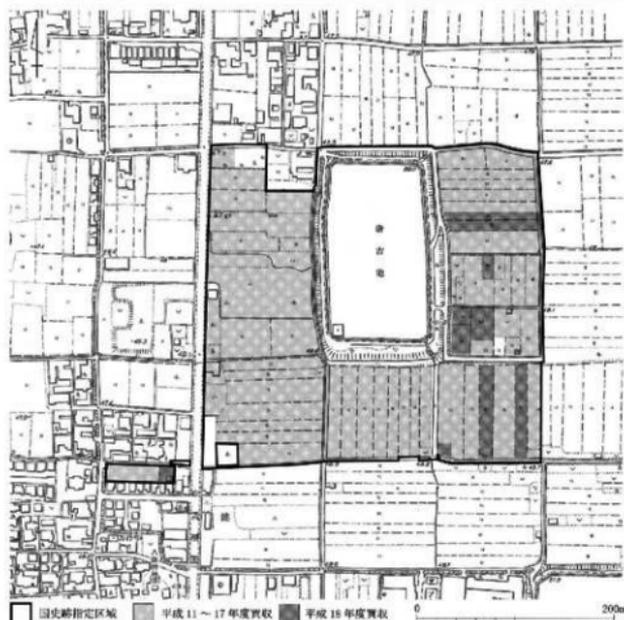
(1) 史跡の公有化

唐古・鍵遺跡は、平成11年1月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73㎡（159筆）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93㎡（鍵248番2他7筆）について追加指定を受けた。これら指定を受けた範囲について、町では平成11年度から公有化を進めている。

平成18年度の公有化は6,786.04㎡で、全公有化面積の約97%となった（唐古池、里道、水路除く）。

唐古・鍵遺跡の公有化

年度	地番	面積
平成11～17年度	唐古 50-2ほか 計 67筆	61,958.07 ㎡
	鍵 225-1ほか 計 41筆	
平成18年度	唐古 131-1ほか 計 10筆	6,786.04 ㎡
	鍵 222-1ほか 計 9筆	
合計	計127筆	68,744.11 ㎡



唐古・鍵遺跡における史跡地買収状況（1：5,000）

4. 研究活動

平成12年度より唐古・鏡遺跡共同研究会を継続してきたが、本年度は「弥生時代の稲作農耕に関する総合的研究」という研究テーマに沿って、下記の研究会を開催した。このテーマは平成22年度まで継続し、成果については別途報告書を作成する。

日 時：3月9日（金）午前10時30分～午後3時 会 場：会議室（田原本青垣生涯学習センター）

参加者：9名

発 表：外山 秀一氏「大型建物等のプラントオバールの分析結果について」

植田信太郎氏「イネの遺伝的多様性と炭化米のDNA分析」

金原 正明氏「唐古・鏡遺跡の古環境と食用植物」



発表風景（外山秀一氏）



発表風景（植田信太郎氏）

5. 講座

平成18年度には、以下の講座を開講した。

（1）考古学実践講座

本年度は、以下の講座を開催した。考古学実践講座は、実践講座Ⅰ（初級編）・実践講座Ⅱ（中級編）・実践講座Ⅲ（実験考古学）とするが、今年度は実践講座Ⅰ（初級編）を開講しなかった。

【考古学実践講座Ⅱ（中級編）】弥生時代の道具

	内 容	会 場	受講者数
5月13日（土）	弥生時代の道具1（農具）	工作室	14名
6月10日（土）	弥生時代の道具2（工具）	会議室	14名
7月8日（土）	弥生時代の道具3（調理具）	会議室	14名

【考古学実践講座Ⅱ（中級編）】青銅器の鑄造

	内容	会場	受講者数
9月9日（土）	唐古・畿道跡の青銅器鑄造遺物	会議室	28名
10月15日（土）	【公開講座】小泉武寛氏（青銅器工房 和銅寛） 「弥生人に学ぶ銅鑄職人」	研修室	43名
11月11日（土）	【公開体験学習】「大型銅鐸の鑄造実験」	唐古・畿道跡	65名

※ 本講座は文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業の一つとして実施した。



公開講座（小泉武寛氏）



公開体験学習（鋳込み）



公開体験学習（鋳型製作）



公開体験学習（大型銅鐸の鑄造）

【考古学実践講座Ⅲ（実験考古学①）】弥生土器をつくる

	内容	会場	受講者数
9月23日（土）	【公開講座】吉田裕彦氏（天理大学附属天理参考館学芸員） 「東インドネシア・スンパ島の文化と土器づくり」	研修室	23名
10月28日（土）	弥生土器をつくる	陶芸室	18名
11月25日（土）	弥生土器を焼く	唐古・畿道跡	23名

【考古学実践講座Ⅲ（実験考古学②）】土器の図面を描く

	内容	会場	受講者数
1月13日（土）	土器の観察	会議室	14名
2月10日（土）	土器の接合	会議室	13名
3月10日（土）	図面を描く	会議室	13名



公開講座（吉田裕彦氏）



考古学実践講座（図面を描く）

(2) チャレンジ子ども弥生探検隊

夏休み・冬休みにあわせて、子供を対象とした体験講座を開催した。また、6・12月にはカレンダーづくりを、11月には生活体験イベントを開催した。

【体験講座】

	内容	会場	受講者数
7月27日（木）	レプリカづくり挑戦	陶芸室	24名（保護者を含む）
8月3日（木）	勾玉づくり挑戦	陶芸室	23名（保護者を含む）
8月23日（水）	土器の復元に挑戦	陶芸室	23名（保護者を含む）
	勾玉づくり挑戦	工作室	20名（保護者を含む）
12月24日（日）	弥生の機でマフラーをつくろう	視聴覚室	22名（保護者を含む）

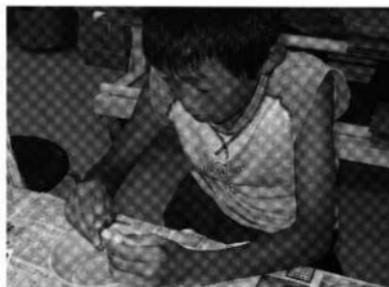
【カレンダーづくり】

	内容	会場	受講者数
6月25日（日）	ミュージアムでマイカレンダーをつくろう①	会議室	17名
12月23日（土）	ミュージアムでマイカレンダーをつくろう②	会議室	17名

【弥生時代の生活体験イベント】

親子を対象に、赤米の脱穀及び炊飯の体験教室を開催した。また、同日午後からは、「考古学実践講座Ⅲ（実験考古学①）弥生土器をつくる」と合同で、土器の野焼き体験をおこなった。

日 時：11月25日（土） 午前9時～12時 会 場：唐古・鍵遺跡の現地
参加者：42名（保護者を含む）



体験講座（勾玉づくり）



体験講座（レプリカづくり）



体験講座（土器の復元）



体験講座（弥生の機でマフラーづくり）



生活体験イベント（炊飯）



生活体験イベント（脱穀）

6. 学校教育の支援と講師派遣

(1) 出前授業

平成18年度には、以下の内容について出前授業をおこなった。

	学校・学年	学級数	内 容
5月26日	北小学校 6年	2	土器づくり
6月9日			土器の野焼き・火織し
6月30日			赤米炊飯
10月23日	平野小学校 6年	2	唐古・縄遺跡説明
11月7日			土器づくり
12月7日			土器の野焼き・火織し



北小学校 火織し



北小学校 土器の野焼き



平野小学校 火織し



平野小学校 土器の野焼き

(2) 職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れた。

学校	期間	人数	内容
北中学校	11月6日～8日	男子3名	土器洗浄・遺物選別・石器の整理
田原本中学校	11月14日～16日	男子2名、女子1名	



土器の拓本



石器の整理

(3) 博物館実習

5月23日から26日の4日間、博物館実習として京都女子大学生1名を受け入れた。実習内容は以下の通り。

期間	内容
5月23日	春季企画展の片付け、展示品リストの作成
5月24日	
5月25日	土器接合・注記・遺物カードの作成
5月26日	遺物の写真撮影・石膏復元

(4) 職員の派遣

【職員の研修】

6月7日～15日 石川ゆずは 埋蔵文化財発掘技術者専門研修『保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程』（奈良文化財研究所）

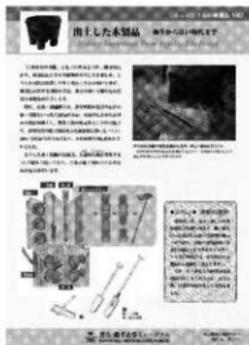
【講師の派遣】

- 7月14日 河森一浩「郷土の歴史教室」（町生涯学習課）
- 8月29日 藤田三郎「アワコウコ楽サポーター養成講座」（徳島県教育委員会）
- 9月9日 奥谷知日朗「第80回例会」（田原本史遊会）
- 3月11日 豆谷和之「考古学セミナー」（財）大阪府文化財センター）
- 3月18日 清水琢哉「第86回例会」（田原本史遊会）

7. 刊行物一覧

平成18年度は以下の刊行物を発行した。

- 【田原本町文化財調査年報15 2005年度】(9月30日 1,000部)
- 春季企画展図録「太子道の巷を掘る」(4月15日 3,000部)
- 秋季企画展図録「弥生時代の青銅器鑄造」(10月14日 3,000部)
- 田原本の遺跡4「弥生の絵画」(3月30日 3,000部)
- 夏季ミニ展示解説シート【田原本の遺跡Vol.2 古墳と中・近世の屋敷跡】(7月22日 1,000枚)
- 冬季ミニ展示解説シート【ミュージアムの収蔵品Vol.2 出土した木製品】(1月27日 1,000枚)
- 特別陳列解説シート「大型銅鐸の復元」(3月6日 1,000枚)



8. 資料の活用

平成18年度は、以下の資料を下記の機関に貸出し、公開利用した。

(1) 資料の貸出

No.	貸出先・期間	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】 平成18年4月14日 ～平成18年7月5日	唐古・鏡	絵面上器 (54)・絵陶土器レプリカ (15)・ 記号 (5)・文様 (1)・銅鐸形土製品 (1)	76	春季特別展 「弥生画帖 —弥生人が描いた世界—」 【展示期間】 平成18年4月22日～7月2日
		清水風	絵陶土器 (12)・絵面上器 (レプリカ) (1)	13	
		八尾九塚	絵面上器 (2)	2	
		羽子田	絵陶土器 (1)・記号文土器 (2)	3	
		保津・宮古	記号文土器 (1)	1	
2	但馬国府・国分寺館展示室 【貸出期間】 平成18年6月29日 ～平成18年9月29日	矢野考古学 復元品	銅鐸鋳型製作途中品 (1)・銅鐸鋳型用 木型 (1)・2号銅鐸鋳型B面復元品 (1)・ 送風管復元品 (曲管1・直管1)	5	企画展「銅鐸—美と謎を考える—」 【展示期間】 平成18年7月6日～9月26日
3	茨城県立博物館 【貸出期間】 平成18年9月7日 ～平成18年12月1日	唐古・鏡	一木簡 (1)・整片 (1)・結晶片岩石磨 丁 (2)・頁岩石磨丁 (1)・石槌 (1)・ 流紋岩石磨丁 (1)・炭化粉 (1)・穂束 (1)・トビ足根中足骨 (1)・シカ右 下顎骨 (1)・カモの仲間 (1)・イス左 上腕骨 (1)・タヌキ (1)・ウサギ (1) ・弓 (1)・石鏃 (狩猟用) (4)・投弾 (土製) (5)・杓子木成品 (1)・合子 (1)・合子蓋 (1)・平鉄 (1)・平鉄未 成品 (2)・鑄針 (1)・刺突具 (2)・糸 巻具 (1)・方形容器 (1)・匙 (1)・整 (1)・鎌納横芥柄 (1)・又鋸 (1)・ 木磨未成品 (1)・横担 (1)・組合せ磨 未成品 (2)・木鏟 (1)・柱状片刃石芥 (2)・石製紡錘車 (1)・土製紡錘車 (1) ・大型銅鐸鋳型外枠複製 (1)・大型の土 製銅鐸鋳型外枠の複製・復元品 (2)・銅 鐸の土製鋳型外枠 (3)・武器の土製鋳型 外枠 (1)・ガラス製丸玉 (2)・碧玉製 管玉 (1)・泥岩製管玉 (1)・絵陶土器 (12)・絵陶土器 (復元品) (1)・絵陶 土器 (レプリカ) (4)・土管 (シカ) (1) ・土管 (イノシシ) (1)・イノシシシ 顎骨穿孔 (1)・銅鐸形土製品 (3)・イノ シシシ顎骨 (8)・土製勾玉 (1)・イノ シシ形土製品 (1)・杓子形土製品 (1) ・分銅形土製品 (1)・ミニチュア土器 (7)・エイ貝椎骨 (1)・ハモ (1)・伊 勢湾地方の甕 (1)・古備地方の巡遊片 (1)・伊勢湾地方の厚口壺 (1)・近江 地方の甕 (1)・銅鏃 (4)・銅鏃 (レプ リカ) (1)・丹塗盾 (2)・石鏃 (武器 用) (1)・打製石剣 (5)・中期高坏 (1) ・中期鉢 (1)・中期広口壺 (1)・中期 甕 (1)・中期水差し形土器 (1)	126	特別展 【縄文のムラ 弥生のムラ —いにしえ人のくらしと文化—】 【展示期間】 平成18年9月30日～11月19日
清水風	絵陶土器 (6)・絵陶土器 (レプリカ) (3)	9			

4	(財) 元興寺文化財研究所 【貸出期間】 平成18年8月31日 ～平成18年11月15日	阪手 カハウト	花瓶 (2)・陶器鉢 (1)・陶器耳付鉢 (1)・伊万里碗 (1)・土師器皿 (4)・陶器小皿 (1)・社形灯火具 (2)・寛永通宝 (7)・文久通宝 (3)	22	秋季特別展 『ヤマ・サト・マチの民間信仰 ～具現化された民衆の心～』 【展示期間】 平成18年10月29日～11月12日
5	奈良国立歴史民俗学研究所 附属博物館 【貸出期間】 平成18年12月7日 ～平成19年1月31日	唐古・鏡	猪形土製品 (1)・猪牙製重飾 (1)・猪下顎骨 (3)・ト骨 (1)	6	特別陳列 『窺突編遊 - 千文の考古学 其一 -』 【展示期間】平成18年12月16日～平成19年1月28日

種別による貸出点数

土器	埴輪	土製品	石器	木器	金属器	牙角製品	ガラス	骨・貝	種・織物	レプリカ 模型・複製品	総点数
122	0	21	20	22	14	11	2	16	2	33	263

(2) 資料の継続貸出

No.	貸出先・期間	遺跡	資料名	点数	利用方法
1	香芝市二上山博物館 【貸出期間】 平成18年4月1日 ～平成19年3月31日	唐古・鏡	弥生土器壺 (1)・弥生土器甕 (1)・弥生土器高坏 (1)・櫛先形石器 (2)	5	常設展示 【展示期間】 平成18年4月1日～平成19年3月31日
2	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】 平成18年4月1日 ～平成19年3月31日	唐古・鏡	土彈 (2)	2	常設展示 【展示期間】 平成18年4月1日～平成19年3月31日
3	大阪府立弥生文化博物館 【貸出期間】 平成17年9月7日 ～平成18年9月5日	唐古・鏡	絵画土器 (4)・長頸壺(記号文) (2)・ミニチュア土器 (3)・ト骨(シカ) (1)・ト骨 (イノシシ) (1)・イノシシ下顎骨穿孔 (1)・大型建物柱 (1)	13	常設展示「弥生プラザ」 【展示期間】 平成17年9月7日～平成18年9月5日

(3) 掲載許可資料

No.	貸出先	遺跡	資料名	点数	掲載書誌
1	株式会社 デコ	唐古・鏡	航空写真 (1)・復元模陶 (1)・模陶が描かれた土器片 (1)・銅鐸石製鈴形 (1)	4	『日本全国比定地トラベルガイド50 邪馬台国への旅』
		多神社	木殿 (1)	1	
2	有限会社 うつつ	唐古・鏡	模陶の描かれた土器片・男根形木製品 (集合) (1)	1	ホームページ 『弥生ミュージアム』
3	株式会社 新泉社	唐古・鏡	模陶が描かれた土器片 (1)・ヒスイ勾玉を納めた縄鉄貯容器 (1)	2	水野正好・石野博恒・岡本健一・西川寿壽「三角縁神祇説の行方」

4	株式会社 新青館	唐古・鏡	航空写真(1)・大型建物跡(第74次調査)(1)・樓閣の描かれた土器片(1)・ヒスイ勾玉を納めた褐鉄甕容器(1)・絳帯具、布巻具(1)	5	小林達彦編『考古学ハンドブック』
5	朝日新聞社	唐古・鏡	シカのト骨(2)・樓閣の描かれた土器片(1)・黄石(1)	4	『朝日ジュニアシリーズ 週刊しゃべらん1』
6	株式会社 青木書店	唐古・鏡	第91次人物絵画土器(1)・第51次人形土製品(1)	2	光本順『身体表現の考古学』
		清水風	第2次人物絵画土器(1)	1	
7	有限会社 三狼舎	唐古・鏡	復元樓閣(1)	1	井沢元彦『遊説の日本史 古代黎明編』
8	PSP出版社 ビジネス出版部	唐古・鏡	褐鉄甕容器に納められたヒスイ勾玉(1)・褐鉄甕容器から取り出されたヒスイ勾玉(1)	2 (転載)	岡田二『図解「邪馬台国」の謎を解く』
9	青谷上地寺遺跡展示館	唐古・鏡	鹿・建物・人物の絵画土器写真(1)・図面(1)	2	ロビー展示『弥生人の描いた絵』展示パネル
		唐古・鏡	銅鐸復元の鑄造過程(7)	7	
10	財団法人 松山市生涯学習振興財団	唐古・鏡	銅鐸復元の鑄造過程	一式	特別展「四国・弥生の宝物」印刷物
11	板井久之	保津・宮古	木製盾(復元図)(1)	1	『大阪歴史博物館研究紀要』5
12	鳥取県環境文化財センター	唐古・鏡	種の穂束(1)・弥生中期の土器(1)	2	①『鳥取県の考古学2 弥生時代1』 ②ホームページ
13	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	唐古・鏡	キヌタ、糸巻き、紡錘車(1)・各種木製容器(1)・炊飯(1)・穂槌具(1)・伏採用斧の柄(1)・銅鏡、円盤形銅製品(1)・伏採、加工用の斧(1)・弓(1)	8	ホームページ
14	株式会社 アルバ	唐古・鏡	樓閣が描かれた土器片(1)	1	①DVD版『デジタルボプラディア』 ②新訂版『総合百科辞典ボプラディア』 ③インターネット版『デジタルボプラディア』 ④携帯電話版『モバイルボプラディア』
15	株式会社 ディアゴステイ ーニ・ジャパン	唐古・鏡	復元樓閣(1)・樓閣を描いた絵画上器片(1)	2	『古代文明 ビジュアルファイル』
16	国際航業株式会社	唐古・鏡	ヒスイ勾玉とその容器(2)	2 (転載)	『文化遺産の世界』ウェブサイト
17	近畿農政局 大和平野農地防災事業所	唐古・鏡	集落復元のイラスト(1)・石磨丁、整杵、鋏(1)	2	完工記念誌『農業のための池の歴史』
18	(株) 至文堂	養福寺	薬師如来坐像(1)	1	鈴木尚博『宿院仏廟』 日本の美術第487号
19	株式会社 ライズ	唐古・鏡	樓閣を描いた絵画土器片(1)	1	『日本通史 別巻 歴史絵巻』
20	近畿農政局 大和平野農地防災事業所	唐古・鏡	樓閣を描いた絵画上器片(1)・ヒスイ製勾玉(1)	2	『ため池紹介ホームページ』
21	株式会社 学生社	唐古・鏡	弥生の絵画(1)	1 (転載)	佐原兵『縄紋土器と弥生土器』

22	たわらもと吹奏楽団		縦間くんキャラクター	9	『演奏会プログラム』
23	学術衛生研究所 「弥生農耕の起源と東アジア」	唐古・鏡	炭化米 (第22次)	9	分析および報告
24	大阪府警察本部	唐古・鏡	ミュージアム展示室 (1)・マツリを再現した模写 (1)・大壺 (1)・牛形埴輪 (1)・復元模型 (1)	5 (撮影)	大阪府警察機関紙 「なにわ」12月号
25	株式会社 ユーキャン	唐古・鏡	横間の描かれた土器片	1 (転載)	『森浩一が語る日本の古代史』 Webサイト公開・ポストカード
26	株式会社 アルパ	唐古・鏡	復元模写	1	『月刊 ポプラディア』 『なぞ解き 縄文時代と弥生時代』
27	鳥取県歴史文化財センター	唐古・鏡	朝に入った石剣 (1)	1	『鳥取県の考古学 第3巻 戦いと交流・墓とまつり』
28	朝日出版社		吉田文之作「横間を嵌め込んだ木製合子」(1)・ミュージアム建物外観 (1)・横間展示風景 (1)	3	『田口善国・北村昭彦・吉田文之』 『週刊朝日百科 人間国家』第54号
29	日本放送出版協会	唐古・鏡	横間の描かれた土器片 (1)	1	『遺跡ウォッチング 古代のロマンを訪ねて』
30	鳥取県歴史文化財センター	唐古・鏡	横間の描かれた土器片 (1)	1	講演記録集『青谷上寺地遺跡特別講演会「横間」再考 - 青谷上寺地のながい柱材をめぐる -』
31	東京文化財研究所		吉田文之氏の肖像写真 (1)	1	『日本美術年鑑』平成17年版
32	河内長野市教育委員会	唐古・鏡	復元模写 (1)・横間が描かれた土器片 (1)・さまざまな装身具 (1)	3	『河内長野の遺跡1 三日月北遺跡』
33	(株)東京堂出版	唐古・鏡	唐古・鏡遺跡出土の弥生土器 (1)	1	『東アジア考古学辞典』

9. 図書を受領

平成18年度は、教育委員会 文化財保存課と唐古・鏡考古学ミュージアムに関係諸機関・個人より264件1,090冊の寄贈図書を受領した。また、図書の購入は37冊である。

分類	報告書	概報	現況資料	年報	館報	図録	パンフレット	紀要	会報
冊数	589	84	8	57(1)	12	64	38	43	3

分類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑誌	目録	その他	合計
冊数	4	108	8	10	4	4	34(3)	1,090

※上記冊数には、2部以上の寄贈8冊を含んでいない。

※()の数字は、CD-ROM2枚、DVD2枚の内数である。

10. ボランティア組織

平成16年4月10日に、ボランティア組織「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立され、下記の活動をおこなっている。平成18年度の会員は、63名（平成17年度は69名）。任意団体であるが、唐古・鍵遺跡の保存やミュージアム事業の支援、小学校での体験学習の支援など、幅広い活動を実施している。

（1）設立の趣意

唐古・鍵遺跡は、わが国を代表する弥生時代の環濠集落で、考古学や歴史研究において大きな役割を果たしてきました。また、長期にわたる発掘調査により、これまで大規模な環濠集落の構造が明らかとなり、様々な出土遺物からは当時の文化を知ることができます。こうした唐古・鍵遺跡は、平成11年に国の史跡に指定され、遺跡公園として整備が進められています。また、平成16年には、唐古・鍵考古学ミュージアムが開館し、これまで出土した豊富な遺物が展示されます。

本会は、唐古・鍵遺跡や弥生時代に理解と愛着を深め、その保存と活用を支援することを通じて、地域社会に貢献することを目的とします。また、活動に当たっては自発的な意志によるボランティア精神を尊重し、自主運営の会とします。（平成16年4月10日）

（2）主な活動内容

- ① 「唐古・鍵考古学ミュージアム」展示ボランティア・ガイドの運営
- ② 「唐古・鍵考古学ミュージアム」や「唐古・鍵支援隊」の広報活動
 - ・ 「唐古・鍵考古学ミュージアム」・「唐古・鍵支援隊」ホームページの編集・運営支援
 - ・ 「唐古・鍵考古学ミュージアム」主催の講演会やイベントなどの支援
 - ・ 外部団体との交流
- ③ 「唐古・鍵支援隊」会員を対象にした学習会、講演会などの企画
 - ・ 講演会（2回以上/年）の企画
 - ・ 考古学体験教室の企画

（3）平成18年度の活動内容

支援隊の活動は、4月15日（土）に開催された総会での承認に基づき、下記の通りおこなわれた。

【運営委員会】

支援隊の運営委員会は、毎月第3土曜日の午前中に実施された。運営委員会は13名で構成され、活動報告や今後の運営等について話し合いがおこなわれた。今年度の主要な議題は以下の通りである。

（1）総会打ち合わせ

- (2) ガイド交流会の開催について
- (3) 北小学校、平野小学校の総合学習への参加について
- (4) 田原本町文化祭への参加について
- (5) ミュージアム主催イベントの支援について

【もの作り実験教室】

田原本町教育委員会主催の各種イベントや、考古学実践講座のアシトができるスタッフを養成するため「唐古・鍵支援隊」の会員を対象に実施。また、体験学習用として、火織し道具一式を30セットと機織用布巻具等24セットを製作するとともに、勾玉づくり用に高麗石を随時分割して用意した。平成18年度は月2回のペースで、合計24回開催した。

【唐古・鍵考古学ミュージアム主催事業等への支援】

唐古・鍵考古学ミュージアムで開催された各種講座やイベントなど19件延べ123名でアシトをおこなった。

	内容	人数		内容	人数
4月23日(日)	春季企画展 報告会	2名	10月15日(日)	考古学実践講座 公開講座	2名
4月29日(土)	春季企画展 講演会	2名	11月11日(土)	考古学実践講座 体験学習	11名
6月25日(日)	カレンダーづくり	7名	11月12日(日)	秋季企画展 講演会	2名
7月27日(木)	レプリカづくり	9名	11月25日(土)	考古学実践講座 体験学習	17名
8月3日(木)	勾玉づくり	8名	12月23日(土)	カレンダーづくり	5名
8月23日(水)	土器の復元	12名	12月24日(日)	機織り	6名
9月23日(土)	考古学実践講座 公開講座	6名			

【町主催イベント・子ども会事業への支援】

	内容	人数
11月4日(土)	田原本町文化祭(勾玉づくり)	12名
10月28日(土)	新木子ども会(勾玉づくり)	4名

【学校教育への支援】

	内容	人数
6月9日(金)	北小学校総合学習(火織し・土器の野焼き)	3名
6月30日(金)	北小学校総合学習(靑織・赤米土器炊飯)	8名
11月7日(火)	平野小学校総合学習(土器づくり)	4名
12月7日(木)	平野小学校総合学習(火織し・土器の野焼き)	3名

【渉外活動】

奈良県観光ボランティア・ガイド連絡会（5回）、大阪奈良リレーウォーク検討委員会（1回）、大阪奈良リレーウォーク実行委員会（1回）に参加した。



平成18年度 支援隊総会



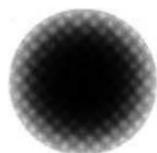
田原本町文化祭



奈良県観光ボランティア・ガイド連絡会
（第1回ガイド交流会 拓本づくり）



奈良県観光ボランティア・ガイド連絡会
（第1回ガイド交流会 土器復元）



Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1. 施設の概要

田原本青垣生涯学習センターは、公民館、弥生の里ホール、唐古・鍵考古学ミュージアム、図書館の4施設からなる複合施設で、建物全体の延べ床面積は13,447.7㎡である。唐古・鍵考古学ミュージアムは文化財保存課、その他の施設は生涯学習課、図書館の所管である。

(1) 田原本青垣生涯学習センターの概要

所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手233-1		
設 施	弥生の里ホール (801席)	3,756㎡	
	図書館	3,447㎡	
	公民館 (13室)	1,687㎡	
	駐車場	183台	
総工事費	約73億3,000万円		



センター全景

(2) 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要

名 称	唐古・鍵考古学ミュージアム		
展示工事費	約215,145千円		
展示設計者	東畑建築事務所		
展示施工者	(株)乃村工藝社		
面 積	唐古・鍵考古学ミュージアム (常設)	347㎡	2階
	特別展示 (会議室を転用)	67㎡	2階
	ロビー展示	5㎡	1階
	受付カウンター	7㎡	
	給湯室	3.2㎡	
	バックヤード	2室 7.36㎡	
消火設備	フロンガス消火		
フロアー	フローリング・強化ガラス (第1室 床下展示)		
映 像	大型3面スクリーン映像 (「唐古・鍵ムラの風景」・「弥生の風景」) 3分35秒		
	大型建物映像 (「大型建物の発掘」・「大型建物再現 (CG)」) 3分		
	実験考古学映像 (「弥生土器をつくる」3分45秒・「木器をつくる」4分43秒・「銅鐸をつくる」7分)		
グラフィック	118枚 (第1室53枚、第2室58枚、第3室7枚)		

2. 開館に至る経緯と名称

(1) 開館に至る経緯と経過

平成13年3月	基本設計完了
平成13年7月	展示室の打合せ開始
平成14年3月	実施設計完了
平成14年9月	建築工事着工
平成15年5月	臨時職員（学芸）採用
平成15年6月	文化財資料展示工事着工
平成16年9月30日	竣工
平成16年11月11日	センター落成式
平成16年11月16日～21日	町民内覧会（観覧無料）
平成16年11月24日	開館



田原本青垣生涯学習センター
(写真中央がミュージアム)

(2) ミュージアムの名称

唐古・鍵遺跡は、日本を代表する弥生遺跡として知名度が高く、考古学や古代史関係の書籍や教科書には必ずその名前が登場する。本ミュージアムは、唐古・鍵遺跡の出土品を中心に構成され、唐古・鍵遺跡の全体像や、弥生文化の具体的な内容を立体的に展示する。

また、単なる考古資料の展示にとどまらず、「考古学」という学問を通して、弥生の情報発信基地になることを目指し、「唐古・鍵考古学ミュージアム」という名称とする。

(3) 展示の方針

1. 展示品は基本的に田原本町の所有品で構成し、一部を他機関・個人（3件）から借用する。
2. 実物資料の展示を基本とし、不足分のみをレプリカとする。
3. デリケートな資料が多いためケース展示とし、重要文化財も展示可能なケース仕様とする。ただし、展示品と見学者の距離は近くし、一点一点の実物資料をじっくり観察できるようにする。
4. 質や量を実感できるように実物資料を多く展示し、解説文やキャプションは最小限とする。また、展示品の造形美を鑑賞していただくことを主眼とし、説明文は少なくする。
5. わかりにくい部分については、「模型」や「映像資料」によって見学者の理解を助ける。
6. 展示の解説には、ボランティア・ガイドを発用する。
7. 唐古・鍵遺跡の展示は、時代的な流れよりムラの風景を再現する。また、弥生の環境や生活の全般がわかる展示を試みる。
8. 唐古・鍵遺跡だけでなく、田原本町の通史（重要文化財「埴輪牛」）も展示する。

3. 利用案内

所在地：〒636-0247

奈良県磯城郡田原本町阪手233-1

田原本青垣生涯学習センター内

TEL：0744-34-7100

FAX：0744-32-8770

URL：<http://www.karako-kagi-arch-museum.jp/>

開館時間：午前9時から午後5時まで

(入館は午後4時30分まで)

休館日：毎週月曜日

12月28日～1月4日

観覧料：

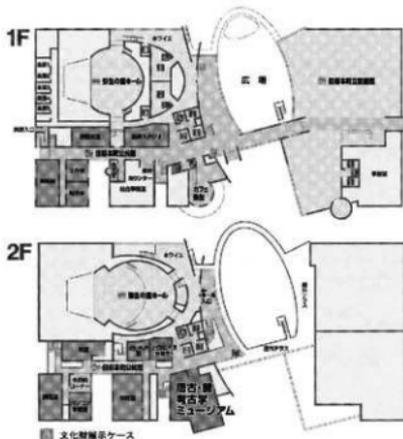
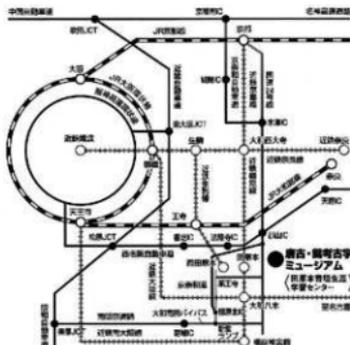
	常設展		特別展
	個人	団体	
大人	200円	150円	町長がその都
高校生・大学生	100円	50円	度定める額

※15歳以下は無料 団体は20名以上

交通：近鉄田原本駅下車 徒歩20分

西名阪自動車道「郡山」インターから

車で約30分



センター平面図

4. 常設展示

(1) 展示室の概要

常設展は3つの展示室から構成され、展示総面積は347㎡、展示品の総点数は948点である。このうち複製品は11点、模型は7点で、実物の展示が多いことが本ミュージアムの特徴である。

展示室は3つの部屋で構成され、それぞれの内容は、第1室・第2室が唐古・鍵遺跡をテーマとする「唐古・鍵の弥生世界」、第3室が田原本町の通史を考古学的に概観する「田原本のあゆみ」となっている。また、展示室のエントランスや田原本青垣生涯学習センター内には、展示室の他に8ヶ所の展示ケース（ロビー展示）を設置し、弥生土器や形象埴輪などを展示する。



エントランス



展示室平面図

(2) 唐古・縄の弥生世界

第1・2室の「唐古・縄の弥生世界」は、唐古・縄遺跡の環濠集落をイメージして設計されている。第1室は環濠外側の世界を、第2室は環濠内側のムラの生活や「もの作り」をテーマとする。

◆第1室◆

環濠内外の環境や、周辺地域との交流、精神世界をテーマとし、「遺跡の発見と発掘調査」・「唐古・縄ムラの人々」・「ムラをつくる」・「弥生の食」・「交流と戦い」・「まつりといのり」・「死者を葬る」の7つのコーナーで構成される。

また、エントランスの床下には、第74次調査で検出された大型建物跡の発掘現場を再現し、出土した大型建物の柱や、大型建物復元の映像資料を展示する。



第1室全景



「まつりといのり」コーナー



「まつりといのり」コーナー

◆第2室◆

唐古・鍵ムラ内側での生活や「もの作り」（手工業生産）をテーマとし、「弥生の住まい」・「土器をつくる」・「木器をつくる」・「青銅器をつくる」・「籠を編む」・「藁を編む」・「糸を撚る」・「布を織る」・「石を割る」・「石を磨く」・「玉を磨く」・「骨を磨く」の12コーナーで構成される。また、中央展示ケースには、8ヶ所の引出展示（取藏展示）を配置し、「さまざまな打製石器」・「リサイクルされた石器」・「石庖丁の製作工程」・「さまざまな石庖丁」・「骨角器の製作工程」・「さまざまな紡錘車」を展示し、多彩な「もの作り」の実態を示す。

なお、第2室では壁面を大型3面スクリーンとして利用し映像資料を放映する。映像の内容は2部で構成される。第1部はスクリーンセイバーで、弥生時代の環境をイメージした映像とし、絵画土器の線画を挿入して構成する。第2部は唐古・鍵ムラの最盛期のイメージを導入部とし、ムラ内部での「もの作り」の様子をイラストによって再現する。また、「土器をつくる」・「木器をつくる」・「青銅器をつくる」のコーナーには小型のビデオを設置し、各製作工程を映像で紹介するとともに、製作実験で使用した道具類や、完成した復元品をビデオ下のケースに展示する。



第2室 全景



「土器をつくる」コーナー



「石を磨く」引出展示

(3) 田原本のあゆみ

田原本町の通史をテーマとし、「田原本のあゆみ」・「埴輪の世界」・「よみがえる古代の技術」の3コーナーで構成される。

「埴輪の世界」に展示する牛形埴輪は、重要文化財に指定されており、今回、ミュージアムの開館に伴って奈良国立博物館から返還された。また、「よみがえる古代の技術」では、人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定された故・吉田文之氏の撥練作品を展示する。



第3室全景

(4) ロビー展示

展示室エントランスに3ヶ所、田原本青垣生涯学習センター内に5ヶ所の展示ケース（ロビー展示）を設置した。



ロビー展示1



ロビー展示2

5. 企画展・ミニ展示・展示解説

平成18年度は、以下の企画展・ミニ展示を開催した。秋季企画展とそれに伴う講座・铸造実験については、文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業として採択され実施した。

(1) 春季企画展「太子道の巷を掘る～保津・宮古の遺跡と文化財～」

内 容：保津・宮古遺跡で検出された太子道、保津・阪手道の交差点と周辺の

文化財を考える。また、「たわらもと2006発掘速報展」を同時開催する。

期 間：4月15日（土）～5月21日（日）

会 場：特別展示室（田原本青垣生涯学習センター2F 会議室）

観覧料：一般200円（100） 高校・大学生100円（50）

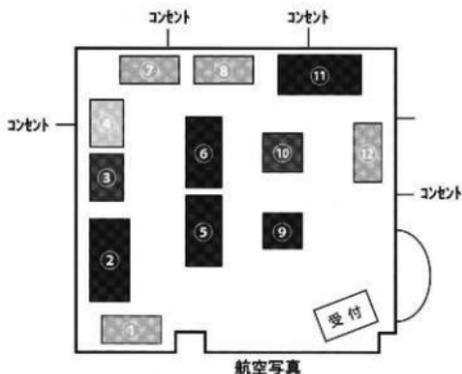
※（ ）は20名以上の団体料金

入館者：790人（企画展のみ）



春季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| ①有舌尖頭器・縄文土器・石器 | ②弥生土器・古式土師器 | ③土師器・須恵器 |
| ④台付甕・滑石製模造品 | ⑤埴輪・木製盾 | ⑥墨書土器ほか |
| ⑦古代土器 | ⑧中世硯・瓦・泥塔 | ⑨「唐人」銘露盤 |
| ⑩馬背人面土器・和鏡 | ⑪速報展Ⅰ（弥生時代） | ⑫速報展Ⅱ（古代・中世） |

【主な展示品】(展示総数479点)

(Ⅰ) 保津・宮古のあけほの

縄文土器・石器
 ミニチュア土器
 記号のある土器

(Ⅱ) 方形区画と古墳の造営

古式土師器
 木製の盾
 スイジ貝文様のある盾形埴輪
 滑石製模造品

(Ⅲ) 官道の整備と官衙遺跡

太子道潤溝に伴う土器
 古代官衙に伴う土器
 須恵器の硯・墨書土器
 土馬・漆塗の銅製帯金具

(Ⅳ) 在地武士の展開と常楽寺

泥塔
 軒平瓦・文字瓦
 和鏡
 露盤

(Ⅴ) 速報展① 常楽寺推定地の調査

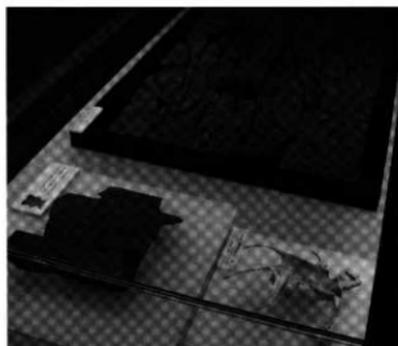
弥生土器・古式土師器
 瓦器塊・土師器皿
 青磁の合子

(Ⅵ) 速報展② 東井上遺跡の調査

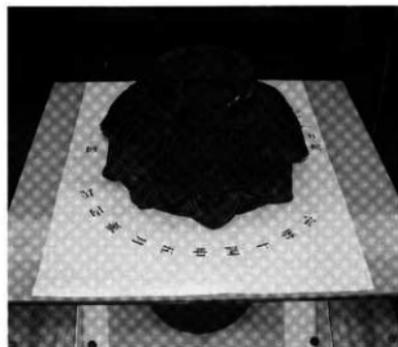
弥生土器
 滑石製白玉
 墨書土器・土馬



展示風景



ケース⑤



ケース⑨